

文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課

2019年度「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」参画事業

—あらゆる人に生涯音楽プロジェクト—

MUSIC with LIFE for ALL PROJECT

M L A P

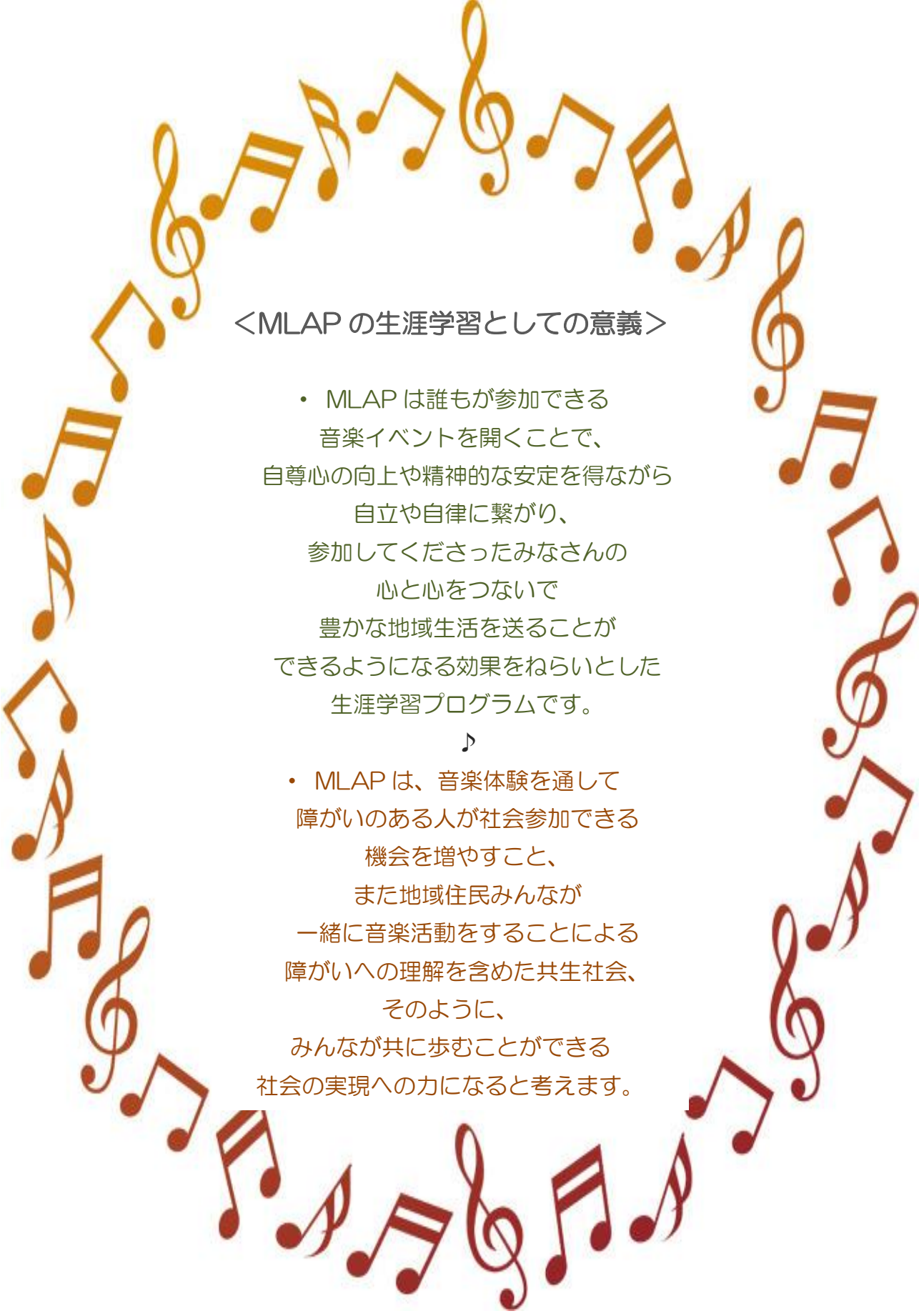
(ムラップ)

2019年度

障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための
参加型の音楽活動を軸とした実践研究

MLAP

福岡市手をつなぐ育成会保護者会



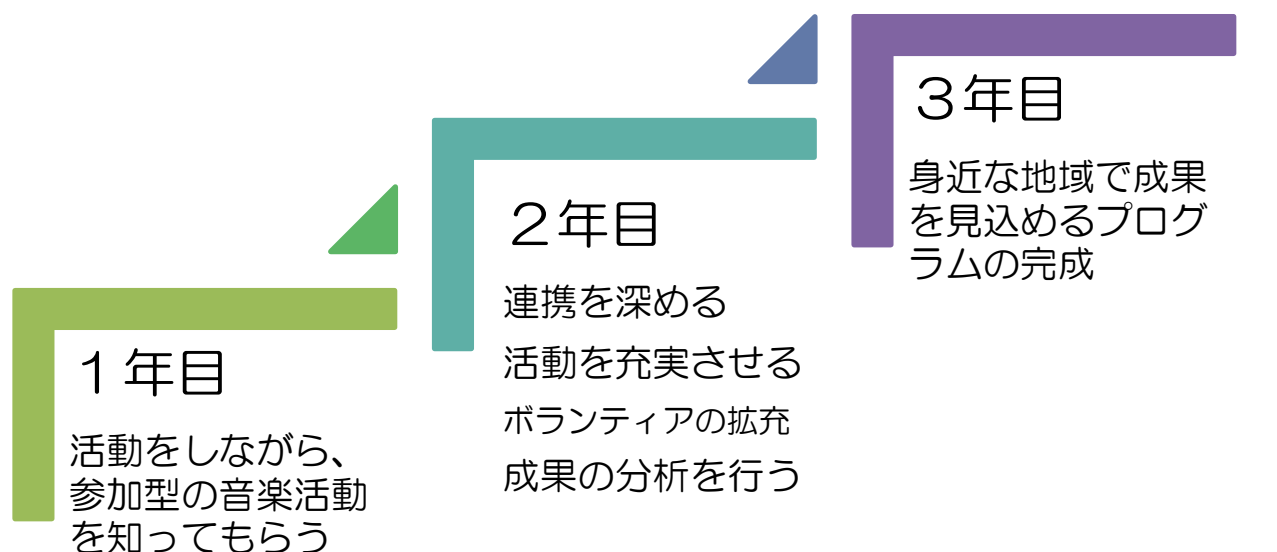
＜MLAP の生涯学習としての意義＞

- MLAP は誰もが参加できる
音楽イベントを開くことで、
自尊心の向上や精神的な安定を得ながら
自立や自律に繋がり、
参加して下さったみなさんの
心と心をつないで
豊かな地域生活を送ることが
できるようになる効果をねらいとした
生涯学習プログラムです。



- MLAP は、音楽体験を通して
障がいのある人が社会参加できる
機会を増やすこと、
また地域住民みんなが
一緒に音楽活動することによる
障がいへの理解を含めた共生社会、
そのように、
みんなが共に歩むことができる
社会の実現への力になると考えます。

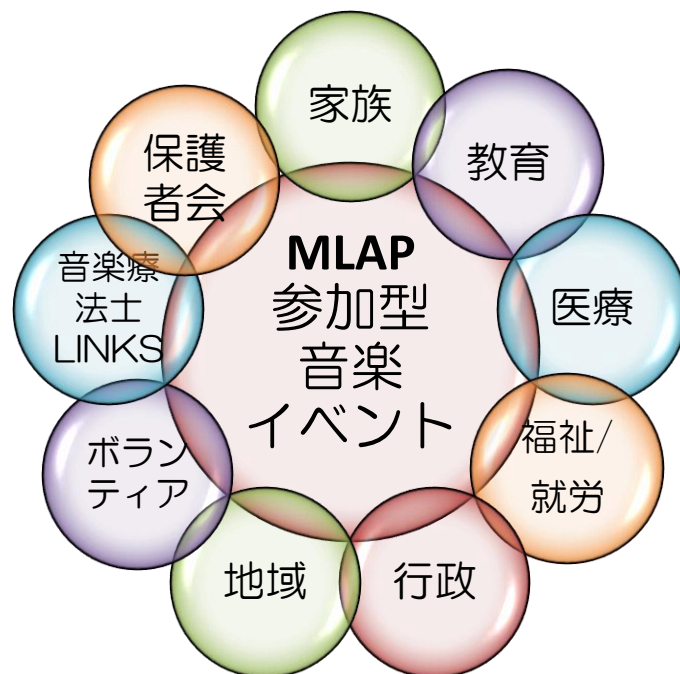
<3年間のMLAPの目標>



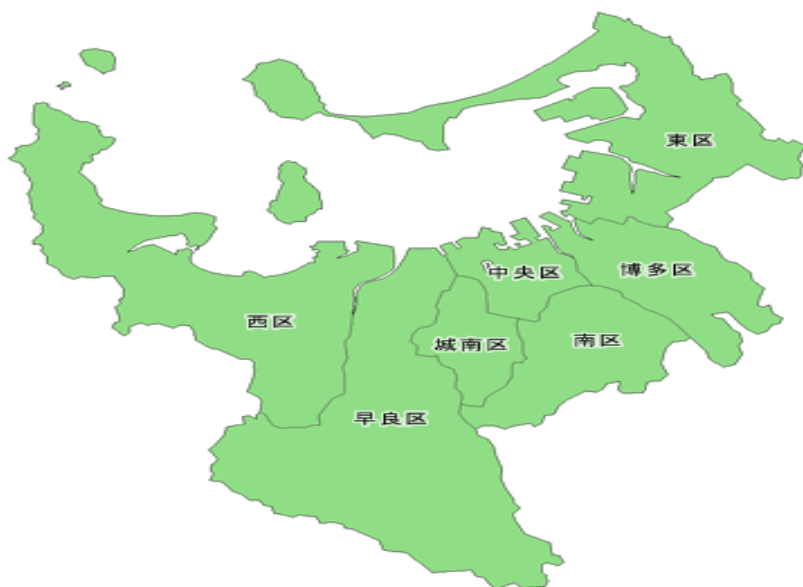
<目次>

3年間のMLAPの目標	2	定例実践報告 13	39
MLAPはさまざまな方と連携しています	3	定例実践報告 14	41
MLAPは福岡市のすべての区で開催します	3	視察報告	42
MLAPでは10の活動を組織的に実施しています	4	ケーススタディ	44
MLAPの特徴	5	学習プログラム構築を見据えた調査結果	
超参加型音楽イベント実践報告1	6		49
超参加型音楽イベント実践報告2	9	今後のMLAPの展開	51
超参加型音楽イベント実践報告3	12	連携協議会開催報告	52
超参加型音楽イベント実践報告4	14	連携協議会構成員	53
超参加型音楽イベント実践報告5	16	連携協議会構成員のMLAPへの思い	54
超参加型音楽イベント実践報告6	20	博多音楽療法コミュニティ LINKS	
超参加型音楽イベント実践報告7	24	構成員	61
超参加型音楽イベント実践報告8	29		
超参加型音楽イベント実践報告9	32		
MLAP2019 報告会	36		
定例実践報告 10	37		
定例実践報告 11	37		
定例実践報告 12	38		

MLAP はさまざまな方と連携しています



MLAP は福岡市のすべての区で開催します



- ☐ 東区
- ☐ 博多区
- ☐ 中央区
- ☐ 南区
- ☐ 城南区
- ☐ 早良区
- ☐ 西区

—あらゆる人に生涯音楽プロジェクト—

MLAP Music with Life for All Project



障がいのある人の生涯学習プログラムの開発のために、
MLAP では10の活動を組織的に実施しています

超加型音楽イベント

年齢・性別・国籍・障がいの
有無などに関わらず、
地域住民の誰もが参加できる

障がいがある
小6までの児童の
グループ音楽遊び
ビートン

障がいがある
中学生以上の人の
小グループ音楽療法
ノートン

障がいがある
個人を対象とした
音楽療法

保護者対象の
音楽体験

シンポジウム

ワークショップ

音楽療法士を中心
とした勉強会
LINKS

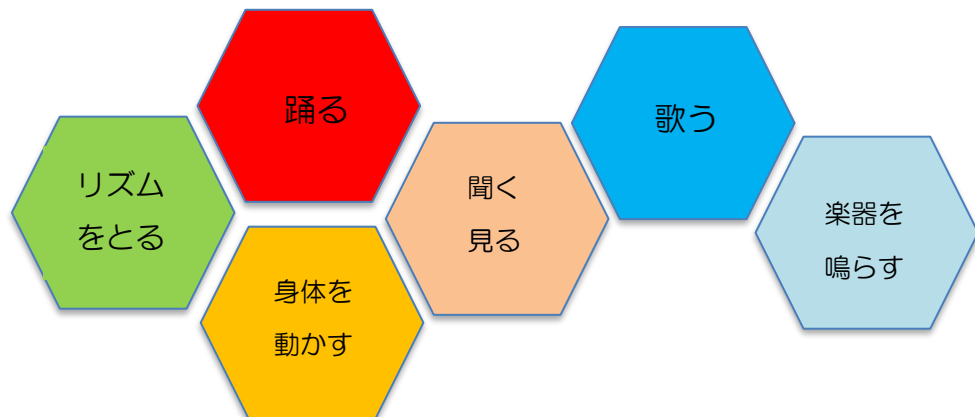
ボランティア
養成講座

視察

MLAP の特徴

- MLAP が参加型音楽活動を手段とする理由は音楽の柔軟性を利用することで、個人でも集団でも、CLOSED でも OPEN でも、能動的でも受動的でも、身体と五感を使ったあくまで本人主体のあらゆる参加方法が可能になるからです。
- MLAP の特性を生かし、人とのふれあいを楽しみながら、本人の障がいニーズに合わせたコミュニケーション力を音楽経験によっていつの間にか学習することができます。
- MLAP は、よく訓練された MLAPPERS（ムラッパーズ）によって展開されます。

例えば。。



<MLAP のパンフレットより>

超参加型音楽イベント実践報告 1

社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会指定障がい福祉サービス ひまわりパーク上牟田 茶話会（保護者会）

日時：2019年8月30日（金） 時間：13:00～14:15

場所：社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会指定障がい福祉サービスひまわりパーク上牟田 デイルーム（福岡市博多区）

参加者：施設利用者とその保護者など約40名

MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 2名

<<概要>>

当該施設において、年に1度実施している「茶話会（保護者会）」の参加者を対象に単発のイベントとして初めて実施しました。参加者は、当該施設利用者とその保護者、当該施設スタッフ含め約40名で、午前中に実施された恒例行事及び昼食後に、初めてのお楽しみのイベントとしての超参加型音楽イベント MLAP の実施でした。そして、MLAP 実施後は、MLAPPERS も含め全員でお茶とお菓子を頂きながらの和やかな談笑の時間となりました。

<<プログラム内容>>

超参加型音楽イベント MLAP のファシリテーターとして2名の MLAPPERS を中心にして、歌唱、身体活動、楽器活動、鑑賞、のプログラムを60分程度実施しました。事前打ち合わせで伺っていた利用者が好んでいる音楽を中心に、一般的に馴染みがある唱歌などをアレンジしてプログラムを作成、また、ひとりひとりにスポットをあてるプログラムを導入し、実施しました。



<<参加者の様子>>

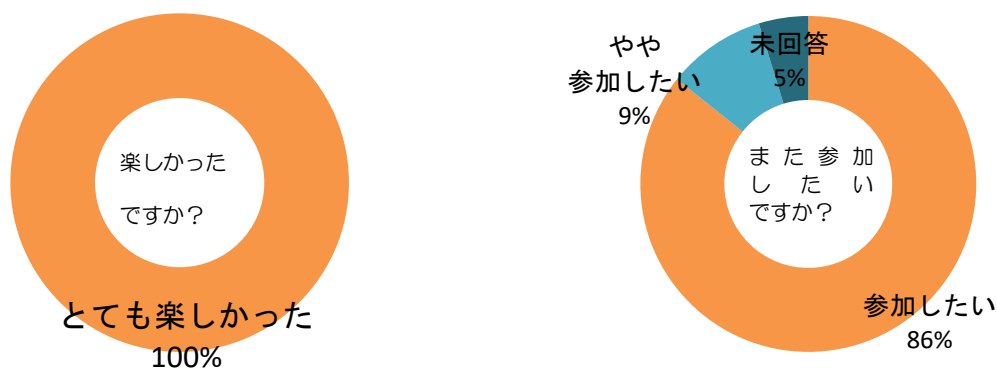
最初は緊張した様子でしたが、少しずつ和んできた様子で、特に利用者の方は全ての活動に積極的に参加してくださいました。保護者の方は、自分自身が楽しんでいる様子であったり、また楽しんでいる利用者を笑顔で見えていました。当該施設スタッフもとてもサポーターに利用者のプログラムへの参加を促してくださっていました。最後は、保護者からアンコールの声も飛び出し、多いに盛り上がるイベントとなりました。



<<アンケート調査結果>>

終了後のアンケートは21名の方が回答してくださっています。「楽しかったですか？」という設問に対しては、100%が「とても楽しかった」、「また、参加したいですか？」という設問に対しては、95%が「また参加したい」もしくは「やや参加したい」と回答しています。

当該施設利用者には、MLAPPERS が手作りした紙でできた花を籠に入れるという方法でアンケート調査を実施し、「楽しかったですか？」という設問に対しては参加していた全員の当該施設利用者が花を籠に入れました。



- ♪ 「誰もが楽しめる音楽」ということでみんなで身体を動かして音楽を聴くだけでなく楽しむことが出来ました。
- ♪ 歌って踊れて何よりも参加型だったのがとても良かったです。あんなに笑っているのを久しぶりに見た気がします。
- ♪ 皆さんのニーズに対し応えていただきとても良かった。皆さん身体を動かし参加されていた。（施設スタッフ）
- ♪ 1人1人が主役になれる時間があったのも良かったです。最後は温かい気持ちになって涙が出ました。
- ♪ 森のくまさんの歌に合わせてみんなの名前を呼ぶことで全員が参加できてとても素晴らしい工夫だと思いました。将来教員を目指しているのでまねさせていただきます。とても楽しかったです。ありがとうございました。（実習生）
- ♪ 参加者全員一つになって楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。

- ♪ 久しぶりに声を出してすっきり楽しいひとときを過ごしました。ありがとうございました。
- ♪ 事前の打ち合わせで対応していただき利用者の笑顔があふれました。（施設スタッフ）
- ♪ 自分たちの年代の歌でたのしかったです。
- ♪ 一体感がとても素晴らしかったです。音楽の〇〇はすばらしい
- ♪ みなさんで参加できてとても楽しかったです。
- ♪ 楽しいひとときを過ごさせていただきありがとうございました。
- ♪ 楽しいひとときをすごさせてもらいました。
- ♪ 大変に楽しかったです。

＜＜アンケート調査結果よりの考察＞＞

「楽しかったですか？」と「また参加したい」という設問に対して、どちらも90%を超える結果となりました。参加者のこの高い満足度を引き出したその理由のひとつとして考えられるのは、事前の打ち合わせ時に対象者の音楽の好みについてアセスメントを実施したという事が挙げられると考えられます。またその情報を基にして、参加者がより参加したくなるであろうプログラムを構築し実施した事、更には当日の参加者の反応に応じて、テンポに変化をつけたり、反応が良い場面は繰り返して実施したりと、臨機応変に柔軟性をもった音楽活動を提供できた事も重要な要因として挙げられると考えられます。

＜＜連携＞＞

地元の団体との繋がりができ、今後の連携のきっかけになりました



超参加型音楽イベント実践報告 2

社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会 交流会

日時：2019年11月14日（木） 時間：10:30～11:30

場所：福岡市立障がい者スポーツセンター（さん・さんプラザ）（福岡市南区）

参加者：社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会関連施設（福岡ひまわりの里・ひまわり園・ひまわりパーク六本松・ひまわりパーク上牟田・事業部）利用者、保護者、職員など約120名

MLAPPERS：MLAP 連携協議委員2名、博多音楽療法コミュニティ LINKS1名

<<概要>>

社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会が年に1度実施している関連事業所の交流会の午前中のイベントとして初めて実施しました。参加者は、福岡市内に在る4つの事業所施設利用者とその保護者、当該施設スタッフ含め約120名でした。

<<プログラム内容>>

超参加型音楽イベント MLAP のファシリテーターとして3名が MLAPPERS として参加しました。内、2名は MLAP 連携協議会委員であり DCFA 協会員福岡ドラムサークル主宰者とそのメンバーであったことから、打楽器を人数分の120個会場に持ち込み、ドラミングの活動を中心にして、歌唱、身体活動、楽器活動、鑑賞、のプログラムを60分程度実施しました。

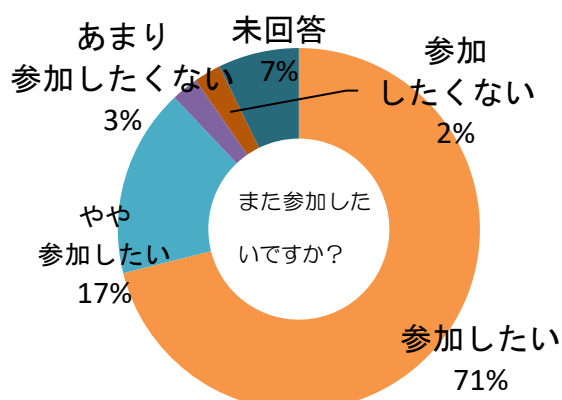
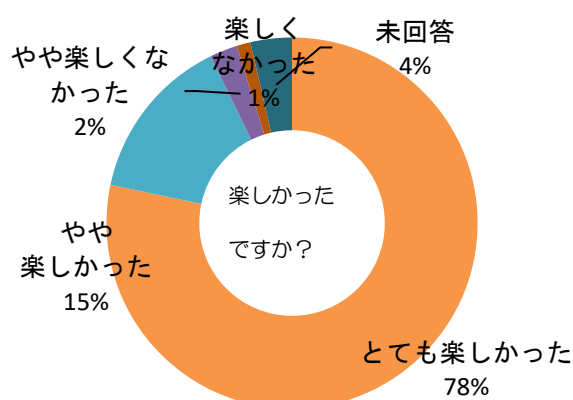


<<参加者の様子>>

120個の楽器が並んでいるのを見ると、積極的に近寄って来てくださって自然と楽器を鳴らし始める姿が印象的でした。大勢で同じ音楽を創り上げていく経験や、その楽器から生まれる振動や自然に出る発声や笑顔は、沢山のひとと人の交流のきっかけになったように見受けられました。ひまわりパーク上牟田の利用者にとっては、2回目の超参加型音楽イベント MLAP への参加だったこともあり、楽しみにしてくださっていたとの事でした。顔なじみの MLAPPERS には、笑顔を交わす場面も多く見られました。今回の超参加型音楽イベント MLAP に対して MLAP 連携協議会一山委員から「・リズムを音、振動など体全体で感じて、気持ちが良い ・みんなと一体になって楽器を鳴らすことが面白い ・皆と合っている感じが心地良い ・前に出て、皆が自分と一緒に合わせてくれることが楽しい、ワクワクする ・初めて会った人とでも笑顔で交流できる ・太鼓や音が鳴るおもちゃを鳴らしながら跳んだり跳ねたりして気分が高まる」とのコメントがありました。

<<アンケート調査結果>>

終了後のアンケートは83名の方が回答してくださっています。「楽しかったですか?」という設問に対しては、93%が「とても楽しかった」もしくは「やや楽しかった」、「また、参加したいですか?」という設問に対しては、88%が「また参加したい」もしくは「やや参加したい」と回答しています。



- ♪ また太鼓をたたきたいです。(障がいのある本人)
- ♪ 次の参加型音楽会にも参加したいです。(障がいのある本人)
- ♪ 楽しかった。(障がいのある本人)
- ♪ 太鼓がとても楽しそうでした。一体感がありました。(障がいのある本人)
- ♪ ジャニーズの曲をやりたいです。(障がいのある本人)
- ♪ また行きたい。(障がいのある本人)
- ♪ 楽器を鳴らす時と止める時が伝わりづらいところではありましたがみなさん楽しませていました。(スタッフ)
- ♪ マイクや太鼓の音が大きすぎると苦手な方が離れていった。(障がいのある本人)

- ♪ サークル活動でやっていますので「参加型音楽イベントMLAP」がなくてもいい。（障がいのある本人）
- ♪ 今回2回目でした。前は育成会ひまわりパーク上牟田でしたが、やや狭い空間でしたので、言葉も音楽もはっきり聞き取れて感銘を受けました。今回は広がったためかマイクの音響のためか言葉が割とききとりにくく残念でした。（保護者）

＜＜アンケート調査結果よりの考察＞＞

「楽しかったですか？」と「また参加したい」という設問に対して、どちらも88%を超える結果となりました。120名という大勢の参加者のこの高い満足度を引き出したその理由のひとつとして考えられるのは、楽器活動の持つ、視覚的、聴覚的、触覚的刺激が関係しているのではないかと考えています。また、正誤を気にする事がほとんどないドラミングを集団で演奏する事、希望があればこの集団のリーダーになる事も可能にする活動である事などが、利用者にとっては新鮮な社会的な活動であった事が要因として挙げられると考えられます。

＜＜連携＞＞

地元の団体との繋がりができ、今後の連携のきっかけになりました



超参加型音楽イベント実践報告 3

社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会指定障がい福祉サービス ひまわりパーク上牟田 地域交流会

日時：2019年11月17日（日） 時間：14:00～15:30

場所：社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会指定障がい福祉サービスひまわりパーク上牟田 デイルーム（福岡市博多区）

参加者：地域住民、施設利用者など約30名

MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 4名

<<概要>>

当該施設において、年に1度実施している「地域交流会」の参加者を対象に単発のイベントとして初めて実施しました。参加者は、当該施設利用者とその保護者、地域住民と当該施設スタッフ含め約30名で、当該施設利用者と地域住民との交流のイベントとしての超参加型音楽イベント MLAP の実施でした。そして、今回も MLAP 実施後は MLAPPERS も含め全員でお茶とお菓子を頂きながらの和やかな時間となりました。

<<プログラム内容>>

超参加型音楽イベント MLAP のファシリテーターとして4名の MLAPPERS を中心にして、歌唱、身体活動、楽器活動、鑑賞、のプログラムを90分程度実施しました。2度目の施設訪問という事もあり、前回に使用した利用者が好んでいる音楽も使用し、新たに前回使用しなかった楽器や手話ソングなど、参加者全員が参加し易いプログラムを作成、実施しました。

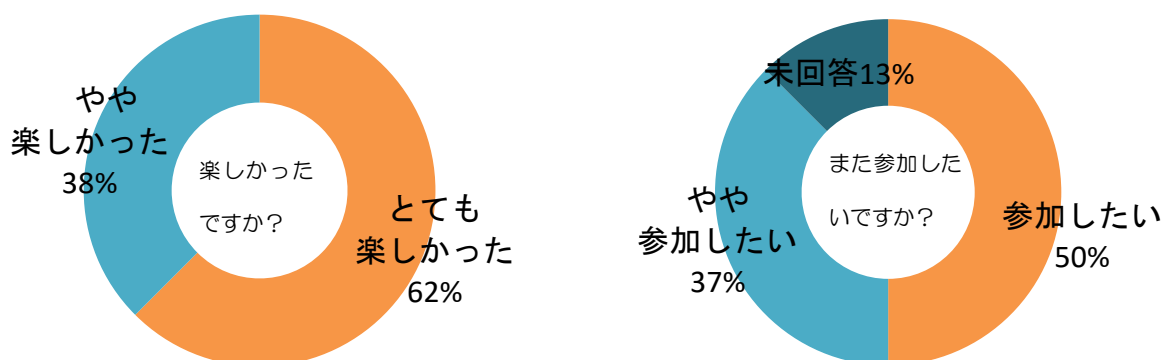


<<参加者の様子>>

2 回目の施設訪問でもあり、交流会のイベントを含むと顔を合わせるのが3回目の利用者の方もおられて、超参加型音楽イベント MLAP との再会を楽しみにしてくださっているという期待感が感じられる雰囲気での実施でした。地域住民の方も当初は緊張した様子も見られましたが、着席の位置が利用者の間であったせいか、利用者の方の積極的な行動に引っ張られるように自然に一緒に参加をしてくださっていたように見受けられました。今回の超参加型音楽イベント MLAP に対して MLAP 連携協議会一山委員から「・利用者のみなさんが MLAP を心待ちにしているのが伝わってくる ・地域の方々も自然に中に入って笑顔になる ・聴覚障がいがある方が手話の歌の体験を通して音楽療法を希望されるようになった ・視覚障がいになられた方が自分から楽器を鳴らそうとしたこと、さらにトーンチャイムの演奏ではみんなから拍手を受けて感動して涙を流しておられた」とのコメントがありました。

<<アンケート調査結果>>

終了後のアンケートは8名の方が回答してくださっています。「楽しかったですか？」という設問に対しては「楽しかった」もしくは「やや楽しかった」が100%、「また、参加したいですか？」という設問に対しては、87%が「また参加したい」もしくは「やや参加したい」と回答しています。



♪ 手話などを多く含んだ歌でみんな楽しめる音楽会だった。(地域住民)

<<アンケート調査結果よりの考察>>

「楽しかったですか？」と「また参加したい」という設問に対して、100%と87%という結果となりました。これらのアンケート結果は、全て地域住民の方によるものであると考えると、このイベントの当初の目的である「地域の交流」イベントとしての役割は果たせたのではないかと考えています。また、同じ施設利用者に対して3回連続して超参加型音楽イベント MLAP を実施したのは今年度が初めての試みであり、利用者の継続した参加による行動の変化なども今年度調査結果として後頁(P44)にて報告をさせていただきます。

<<連携>>

地元の団体との繋がりができ、今後の連携のきっかけになりました。

超参加型音楽イベント実践報告 4

障がい者の家族やサポーターを対象とした集団音楽活動体験

日時：2019年11月17日（日） 時間：9:00～10:00

場所：福岡市海の中道青少年海の家 研修室（福岡市東区）

参加者：福岡市手をつなぐ育成会保護者会幼児・学齢部会第14回 ひまわり療育
キャンプ参加の保護者とスタッフなど約15名

MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 1名

<<概要>>

福岡市手をつなぐ育成会保護者会幼児・学齢部会が毎年1度実施しているひまわり療育キャンプの参加児童の保護者とスタッフ約15名を対象にした今年度2回目の実施でした。児童とボランティアが野外活動に参加している時間を利用して、普段子どもの事ばかり考えている保護者本人が、自分自身を自由に解放できる音楽活動に参加する事で、音楽活動に参加する子どもの疑似体験をする事だけにとどまらず、保護者本人が音楽によるリラックスできる時間を経験する中で、自分自身を改めて見つめる内省の時間となることを目的に実施しました。

<<プログラム内容>>

MLAPPERS 1名による、自己紹介歌や楽器活動、身体活動などを60分程度実施しました。参加が2度目の保護者もおられて、リラックスをした雰囲気の中で実施する事ができました。

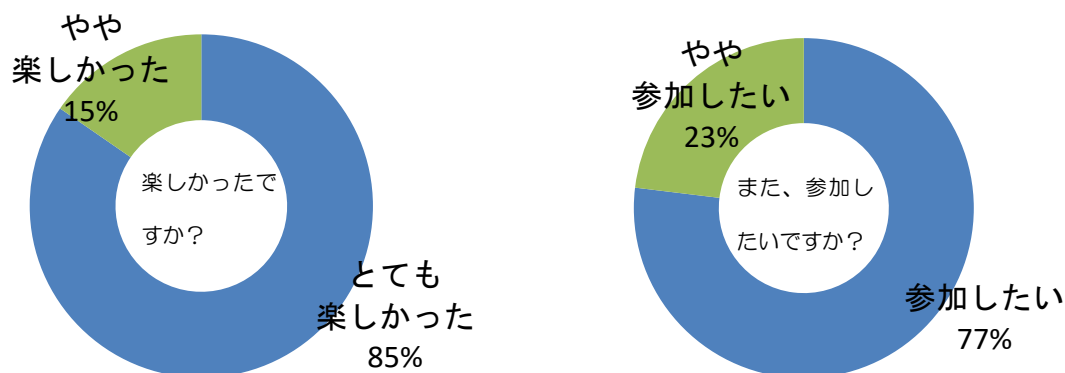


<<参加者の様子>>

音楽を使用したリラクゼーションをゆっくりと実施した後に、椅子をサークル状にセッティングして着席して活動を実施しました。最初は、緊張した面持ちだった保護者も、プログラムが進んでいくと少しずつ慣れてきて、自由に音楽を介した自己表現の活動を楽しんでおられるようでした。

<<アンケート調査結果>>

終了後のアンケートは13名の方が回答してくださっています。「楽しかったですか？」という設問に対しては「楽しかった」もしくは「やや楽しかった」が100%、「また、参加したいですか？」という設問に対しても、100%の参加者が「また参加したい」もしくは「やや参加したい」と回答しています。



- ♪ 音楽を意識する良い機会になりました。音楽の力を感じました。ありがとうございました。
- ♪ 音楽活動を通して人と人の距離をすごく自然に縮めてくれたことに感動しました。
- ♪ いろんな楽器にふれることが出来て楽しかったです。
- ♪ リラクゼーションの時間だけ2時間とかやってみたいと思いました。解放の時間になりました。楽しかったです。
- ♪ 緊張ときどきもあり、子どもたちはいつもこんな感じの中で活動しているんだなあと子どもたちの気持ち、昔の気持ちを思い出しました。

<<アンケート調査結果よりの考察>>

昨年度開催後に、実施時間や場所、内容について参加者からの意見を聞き、今年度はそれらを含んだ内容となるように実施したことが、高い評価結果へと繋がったと考えられる。音楽活動は子どもだけのものではなく、内容によっては成人にも十分に楽しんでもらえる、また自身の心身の健康の為に寄与できる活動としての認識を啓発することでもできたのではないかと考えています。

<<連携>>

保護者の音楽療法及び音楽活動への理解が深まり、今後の更なる連携のきっかけになった活動でした。

福岡市立城南障がい者フレンドホーム ふれあい広場クリスマス会

日時：2019年12月14日（土） 時間：14：20～14：40
場所：福岡市立城南障がい者フレンドホーム併設老人福祉センター寿楽園 2 階
大広間 （福岡市 城南区）
参加者：地域住民、施設利用者など約80名
MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 4名、ボランティア 1名

<<概要>>

当該施設が毎年実施している「ふれあい広場クリスマス会」の中の1つのプログラムとして、本年度2回目の実施となりました。対象者は、当該施設利用者と地域住民の方でした。

<<プログラム内容>>

超参加型音楽イベント MLAP のファシリテーターとして4名の MLAPPERS とボランティア1名が参加者の前に立って活動をリードしていくというスタイルで、歌唱、身体活動、リズム活動、鑑賞のプログラムを15分程度実施しました。2回目の実施ではありましたが、昨年とは実施の場所環境が違っている事もあり、限られた環境の中でできる内容を計画し実施しました。



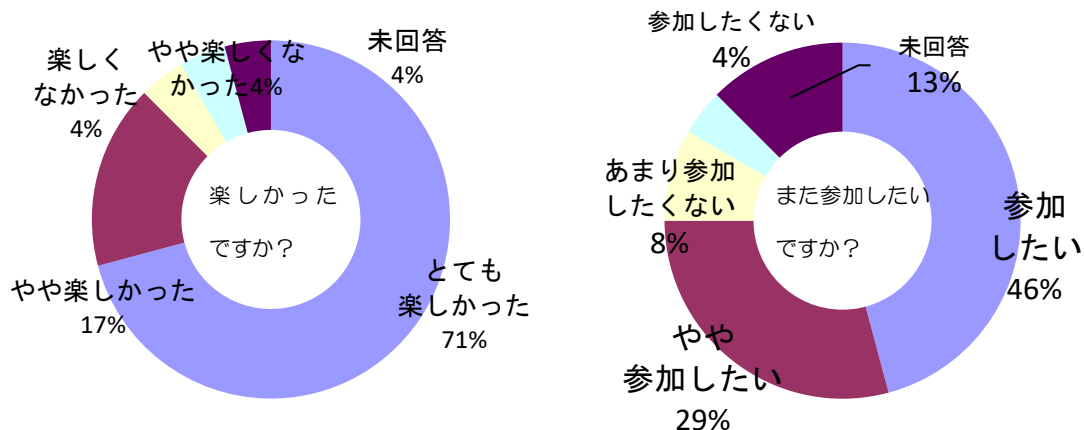
<<参加者の様子>>

MLAPPERS と参加者の距離が近かったので、参加者も積極的に参加意欲を示してくださっていたように感じました。MLAPPERS からの問いかけなどにも反応が良く、一体感も感じられたイベントになったよう

に感じました。今回の超参加型音楽イベント MLAP に対して MLAP 連携協議会一山委員から「・座ったまままでできる活動、誰でもが参加できる活動である ・短時間のプログラムだったが、みなさんの笑顔が見られて元気が出た ・とても楽しかったのでまた参加したいと思った」とのコメントがありました。

<<アンケート調査結果>>

終了後のアンケートは24名の方が回答してくださっています。「楽しかったですか？」という設問に対しては「楽しかった」もしくは「やや楽しかった」が88%、「やや楽しくなかった」もしくは「楽しくなかった」が2,8%でした。「また、参加したいですか？」という設問に対しては、75%が「また参加したい」もしくは「やや参加したい」と回答して、3,8%が「やや参加したくない」もしくは「参加したくない」という結果でした。



- ♪ 年齢関係ない音楽で楽しめました。(保護者)
- ♪ MLAPさんの活動を初めて知りました。暖かい雰囲気とても良かったです。(地域住民)
- ♪ いろんな音楽があったので楽しかったです。(障がいのある本人)
- ♪ 身体を音楽だけで動かせるなんてすごかったです。(地域住民)
- ♪ 今日は城南フレンドクリスマス会とても楽しかったです。(障がいのある本人)
- ♪ とても楽しかった。
- ♪ もっと長く身体を動かす活動がしたいです。今日はありがとうございました。(保護者)
- ♪ 去年の方が楽しかった。(障がいのある本人)
- ♪ 楽器など(鈴、タンバリン)一緒に出来たらもっと楽しかったかな?と思いました。(保護者)
- ♪ みなさんの前に出て、踊ったり歌ったりするのは、ちょっと恥ずかしかったのですが、みなさんが笑顔になったり、拍手をして下さったりしたので、自信を持ってみなさんの前でパフォーマンスをすることができました。みなさんの笑顔が見られて、とても楽しかったです。とても楽しかったため、ぜひまた参加したいと思いましたので、1月のMLAPも申し込んで参加します。(ボランティア)

＜＜アンケート調査結果よりの考察＞＞

アンケート結果にばらつきがでた理由のひとつに考えられるのは、当該施設での超参加型音楽イベント MLAP が「ふれあい広場クリスマス会」の中の1つのプログラムであったことがいえると考えられます。今年度は MLAP の他には人形劇、手話ダンスや福引などがプログラムの中にあり、参加者それぞれが楽しみにしているプログラムが MLAP の他にあったという事も十分考えられます。また、2回目の実施という事で、アンケートの自由表記の中に、「去年の方が楽しかった」と、昨年のイベントと比較してくださっている内容もあり、そのような意見も大切にしていきたいと考えています。昨年度との活動内容の比較については、MLAP 出演を依頼して下さった当該施設の生活相談員で MLAP 連携協議会委員でもある清家委員のコメントは下記＜＜連携＞＞の部に掲載しました。

＜＜連携＞＞

今回の超参加型音楽イベント MLAP に対して、当該施設の生活相談員である MLAP 連携協議会清家委員のコメントです。

①昨年度との違い

- ・昨年度は、ステージ上での出演だったが、今年度は客席、来場者に近い位置での出演だった。
- ・出演の人員は、昨年度3名だったが、今年度は5名だった。
- ・昨年度はストーリー仕立てで、ボランティア学生及び参加者を巻き込んでステージへ上がってもらったスタイルだったが、本年度は MLAP の皆さんが参加者に近づき、メンバーそれぞれが役割を担って、歌やパフォーマンスをリードするスタイルだった。
- ・昨年度は、参加者に楽器を渡し一緒に演奏する場面があったが、今年度は参加者が楽器を演奏する場面は見受けられなかった。今回は、歌遊び・手遊びに近いスタイルだった。
- ・今年度は「MLAP」のTシャツを着ての出演だった。

②昨年度と今年度の善し悪し

- ・昨年度は、参加者である子供達の積極性を引き出すスタイルだったことが良かった。
具体的には、ステージ上で楽器を示して「楽器を触りたい人？」などと言った言葉掛けがあったため興味がある子供達は前へ出ていた。また、ストーリーを作り、学生に役を演じてもらったのも良かった。
- ・今年度の MLAP のチームTシャツは、参加者に対しまとまりのあるグループである印象を与えつつ、期待感を抱かしてくれる効果があったように思われた。
- ・今年度は、MLAP の皆さんがそれぞれ役割を持って、それぞれがリーダーになったので、飽きが来ず、全体が一つとなり最後まで楽しめた内容だったと思われる。

③課題に思われること

- 記録写真を改めて見返すと、来場者は一様に喜ばれていたように見受けられる。障がい者（知的・発達）やご家族の皆さん方は概ね笑顔だった。が、子供達・障がい児の笑顔が少なかったように感じられた。しかし、みんな最後まで集中して見入っていたので楽しんでくれていたのだと感じる。
- 来場者の感想は、アンケートの結果から読み取ることができるが、実際にはどれほどのインパクトを受けたのかが気になる。その反応を伺う手段は、やはり音楽や楽器に興味があるかどうかを直接尋ねることが一番良いように思われる。健常のお子さんで興味がある子は積極的に食い付いてくるだろう。しかしながら消極的な子や、自己表現や表出が難しい障がい児者には、彼らのそばへグイグイ近づいて反応を伺う方が良いと思われる。照れた反応を示す子もいるだろうし、高い音が苦手な子もいるだろう。そのため、前置きをして（理解をもとめて）、彼らに近づいていくと良いように思われる。今回ほどの人数だと全員に同じアプローチはできなが、良しにつけ悪しきにつけ、一例二例（一人、二人の反応）を獲得できる絶好の機会ではないかと思われる。
- 昨年度と今年度の内容が違っていたので、できれば前回行った内容を盛り込みつつ、今回新しい内容を取り入れると、前回と今回を受けた参加者の反応の比較がし易いのではと思われる。



超参加型音楽イベント実践報告 6

りんりんりんくすⅣ

日時：2020年 1月 13日（祝） 時間：10:30～11:40

場所：福岡市市民福祉プラザホール（福岡市 中央区）

参加者：38名（障がい者 15名、保護者 15名、一般親子 1組（4名）、行政関係者 1名、社会福祉協議会関係者 1名、地域住民 2名）

ボランティア：15名（一般 6名、福岡大学・西日本短期大学学生 8名・障がいのある本人 1名）

MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 8名

後援：福岡市・福岡市教育委員会

<<概要>>

音楽療法士を中心とした勉強会である博多音楽療法コミュニティ LINKS の4回目の超参加型音楽イベント「りんりんりんくすⅣ」として実施しました。MLAPのプロジェクトが開始した昨年よりも2年前に開始したイベントで、年を重ねる毎に、イベントとして定着をしてきた印象を受けました。ボランティアにもできるだけ大勢参加してもらい、参加者のサポートをお願いすると共に、参加者全員が一緒に楽しむ経験を提供することを狙いとしています。

<<プログラム内容>>

超参加型音楽イベント MLAP のファシリテーターとして 8名の MLAPPERS と 1名の ボランティアを中心にして、歌唱、身体活動、楽器活動、鑑賞、のプログラムを 80分程度実施しました。ふくふくホールの観客席をフラットにして、またステージとフロアの段差をできる限り無くして、MLAPPERS と参加者の一体感を狙った環境設定で実施しました。

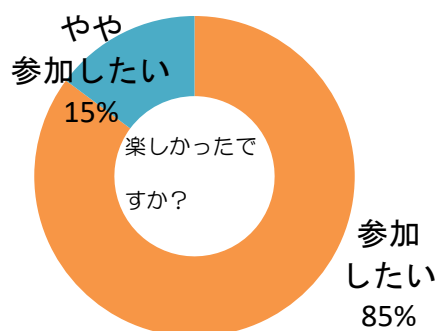
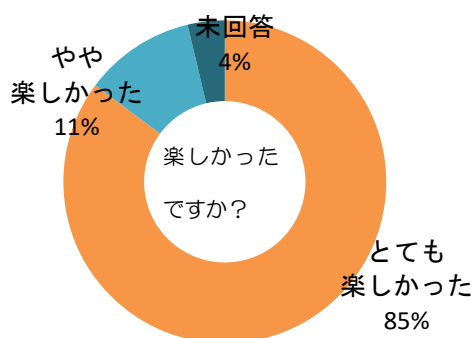
<<参加者の様子>>

過去にもこのイベントに参加した経験のある参加者も少なくなく、開始時より期待感と温かい雰囲気を感じられる空間の中で、どの活動も活気があって盛り上がった活動となりました。この報告書の中の「超参加型音楽イベント実践報告」の1、2と3で MLAP を経験して下さった「ひまわりパーク上牟田」の利用者の方が、この「りんりんりんくす」のイベントの情報を聞いた事で、自分自身で公共交通機関を利用して実施場所まで来て参加をしてくれています。



＜＜アンケート調査結果＞＞

終了後のアンケートは27名の方が回答してくださっています。「楽しかったですか？」という設問に対しては「楽しかった」もしくは「やや楽しかった」がを合わせて96%、「また、参加したいですか？」という設問に対しては、100%が「また参加したい」もしくは「やや参加したい」と回答しています。



- ♪ 娘が初めて会ったボランティアさんと音楽（曲）がもっと聞きたかったと話そうになっていた。初見の人とはなかなか慣れないが好きな音楽の話題で少しつながったのかもしれない。（保護者）
- ♪ 音楽が好きだけど静かに座っていることが出来ない子供も一緒に楽しめる事が出来たのでとても嬉しかったです。ありがとうございました。（保護者）
- ♪ 楽しそうにしている参加者を見ているとこっちまで楽しくなりますね。
- ♪ 皆さんからパワーをもらえて日常では感じる事の出来ない楽しさを味わうことが出来ました。（施設職員）
- ♪ 城南フレンドのクリスマス会でMLAPさんの活動を知りました。娘は知的障害がありますが音楽、今日の活動などをとても好きで私も気兼ねなく連れてこられるので参加しました。初めてで少々恥ずかしがっていましたがいっぱい楽しめました。（保護者）
- ♪ 笑顔が多い。（保護者）

- ♪ とても楽しかったです。（障がいのある本人）
- ♪ 音楽の感じ方は本当に自由で自由に表現できている身体の動きや声や表情を見ることが出来てとても嬉しかったです。私自身もとても楽しめました。汗かきました。
- ♪ 盛り上がるだけでなく止めたり静かに耳を澄ましたりするので参加がしやすいと思った。楽しそうにしている参加者を見ているとこっちまで楽しくなりますね。（地域住民）
- ♪ 知っている友達や先生がいたので緊張することなく楽しく参加する事が出来ました。（保護者）
- ♪ 1人で参加しましたが楽しく勉強させていただきました。今度は近所の小さい子供を連れて参加したいと思います。音楽はいつも良いですね。（地域住民）
- ♪ 初めて参加しました。とっても楽しかったです。ありがとうございました。（地域住民）
- ♪ りんりんりんくすは初めての参加でしたが、本人も妹もすごく楽しんでいて、その姿を見れたことが私たちには何より良かったなという感想です。同じような障害児向けのイベントにも行ったことはありますが、その中でも一番くらいに楽しめたと思います。何が違うのかはうまく言葉にできませんが、私が感じたのは雰囲気の良いさでした。・広すぎず、狭すぎない会場で（子どもについて回らなくても安全だった） ・参加者にも運営の方にも構われすぎず ・好きに動き周りながら参加できて ・どんな参加の仕方でもいいんだよーという空気（やってもいい、やらなくてもいい、やり過ぎても怪我がなきゃいい）が説明されずとも漂っていて…今考えると、私たち親がその雰囲気に身を委ねられたというのが一番良かったと感じられた原因だったかなと。ポウさんがあれこれと手伝ってくれるのは本当に助かるんですが、いつもどこか「申し訳ないな、（こんなに手を煩わせて）うちの子にはまだ早かったかな」というモヤモヤがあるんですが、今回はあまりそれも考えずに済んで、まさにのびのび参加できました。（みんなでリズムをとる活動など私が楽しんでしまいました） たまたまうちの子どもに合っている活動だった、体調が良かったということもあるでしょうが…とにかくまた参加できればなーと思った楽しいイベントでした。ありがとうございました。（保護者）
- ♪ 中学2年生の息子と一緒に、今回2回目の参加です。ことば、会話でのコミュニケーションは難しい息子ですが、音楽あそびは小学生の頃から大好きで、今回もノリノリで踊ったり、歌ったりしていました。小さな幼児さんからご年配の方まで、年齢、性別、障がいの有無、関係なく音楽を通して一体感を感じる事ができました。このような音楽催しをもっと色々な地域で行われ、たくさんの人たちに広がっていくといいな、と思います。（保護者）
- ♪ 今回は息子がテンションが程よくアゲの時期だったので、本人なりに楽しく参加できて良かったです。先生やスタッフの方、知り合いがたくさんおられたので安心できたのかとも思います。重度の親はまわりに迷惑をかけないかとか、本人の反応も予想がつかず、どうしても遠慮癖がついてしまいます。申し込む時も躊躇したり悩んだりもするので、もう少し申し込み期間が長くとれたらよかったかなと思います。また支援学校に通っている間は情報が回っても、成人期に入るとなかなか伝わらない状況になりがちです。みんながみんなHPやFacebookをまめにチェックしている訳ではないので、最後は口コミかなと感じます。何回も繰り返し開催して、次第に参加の輪が広がっていくといいなあと期待しています。（保護者）
- ♪ 大きなホールでの活動だったのでビートンとは音の響き方が全然違い、いつもは感じられないような臨場感を味わうことができ、子供たちだけではなく保護者の皆さんや大人も楽しむことができていたと思います。ステージに立って

いたけどホールみんなが楽しそうに歌ったり踊ったりしているのを見て私自身も楽しかったです。(ボランティア)

♪ 「上手にさせないといけない」とか「まわりと違うことをさせてはいけない、とかを心配せずに参加でき、保護者自身も楽しめた。(保護者)

♪ 自分自身も楽しく、障がいのある方が楽しそうにしている姿を見て、さらにうれしくなった

♪ 楽しかった。(障がいのある本人)

♪ こんな活動を全く知らなかった。障がいがある人とかかわる、ということで少し気が張って参加したが、参加すると自分自身が楽しく、障がい者を意識することがなかった。自分の地域でもやってもらいたい(民生員児童委員)

<<アンケート調査結果よりの考察>>

「楽しかったですか?」と「また参加したい」という設問に対して、どちらも96%を超える結果となりました。参加者のこの高い満足度を引き出したその理由のひとつとして考えられるのは、オープンの活動ではあるものの、この「りんりんりんくす」イベントを事前に知っていて、楽しみにしてくださっている参加者が多いことが挙げられるのではないかと考えています。MLAPPERS 側も、例年の参加者の反応やアンケートを参考にして、より楽しんでもらえるようなプログラムを計画実施している事も要員のひとつであると考えています。地域住民の参加もあり、障がいの有無に関係なく一緒に音楽活動を行うことで、自然と理解し合うことをお互いに感じ合うことができたことは、当実践研究の目的のひとつである、共生社会への実現へ大きく期待を持つことができました。

<<連携>>

昨年度に引き続き、福岡市内の特別支援学校に案内をすることで繋がりができて、今後の連携のきっかけになった活動になりました。また、多くのボランティアとの連携や、地域大学のサークルメンバーとの連携も実現されたと感じています。



大人のゆっくりりんりんくす Ⅰ

日時：2020年1月13日（祝） 時間：14:00～15:00

場所：福岡市市民福祉プラザホール（福岡市 中央区）

参加者：43名（事前に申し込んだ高校生以上の障がい者 7名、保護者6名、
高齢者施設利用者10名、高齢者施設職員3名）

ボランティア：10名（一般3名、福岡大学・西日本短期大学学生6名、障がい
のある本人1名）

MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 8名

後援：福岡市・福岡市教育委員会

<<概要>>

「超参加型音楽イベント実践6」（P 20）で報告いたしました音楽療法士を中心とした勉強会である博多音楽療法コミュニティ LINKS が中心となって実施している超参加型音楽イベント「りんりんくす」に参加したいけれど、なかなかその勇気がないという本人の保護者からの意見を受け、近い将来に超参加型音楽イベントに参加できる事を目標にして、そのための準備イベントとして、参加者とボランティアがマンツーマンで参加するスタイルの超参加型音楽イベント MLAP として実施したのがこの「ゆっくりりんりんくす」です。

<<プログラム内容>>

超参加型音楽イベント MLAP のファシリテーターとして8名のMLAPPERSと1名のボランティアを中心にして、歌唱、身体活動、楽器活動、鑑賞、のプログラムを60分程度実施しました。事前に申し込みをしていた参加者を中心として予めボランティアとペアを組んでいたため、その参加者たちの参加の様子を想像しながらできるだけペアでの関わりが増えるようなプログラム内容を計画、実行しました。



<<参加者の様子>>

事前に申し込みをしてくださった利用者の他に、午前中の超参加型音楽イベント「りんりんりんくす」に参加して下さって、そのままこの「ゆっくりりんりんりんくす」に参加して下さった方が数名おられたり、地域の高齢者施設の利用者とスタッフが飛び入りで参加して下さったり、と当初の予定よりも大勢の人数での開催でしたが、それでも利用者ひとりひとりの顔をしっかりと見ながら落ち着いたアットホームな雰囲気を実施できたと感じています。申し込みをしてくださっていた利用者の方も、ボランティアとペアを組んでいるという事で安心をされたのか、本人の興味が向くままにのびのびと音楽活動に参加して下さっている様子が伺えました。また、午前中から引き続き参加された方も終始笑顔で活き活きと活動されているのが印象的でした。この超参加型音楽イベント MLAP に対して MLAP 連携協議会一山委員から「・ボランティアに来たが、自分自身がとても癒やされ、元気になれた ・歩きたいだけ歩き続けても、大きな声を出しても、肯定される、・・・普段は周囲に迷惑をかけていると思い謝ってばかりおられる ・何をしても大丈夫、自由で構わない、そのままで大丈夫 ・評価、否定、とがめられる、指導されることは一切ない ・親御さんが謝る必要は全くない ・2人組での活動（個別活動）であると、さらに信頼関係が深まり仲良くなり、共に楽しめる」とのコメントがありました。

<<アンケート調査結果>>

終了後のアンケートは16名の方が回答してくださっています。「楽しかったですか？」という設問に対しては「楽しかった」が100%、「また、参加したいですか？」という設問に対しては、94%が「また参加したい」と回答しています。



- ♪ 今回の音楽やダンス活動は年齢や障がいの有無に関係なく自由な雰囲気に参加者誰でも楽しめるので本当に良いと思います。スタッフの方は準備が大変だと思いますがまた来年もその次の年も続けていって頂きたいです。（ボランティア）
- ♪ 利用者の皆さんがいつも見せないような笑顔をしたり楽しんでいる姿を見ることが出来ました。障がいのある人高齢者、私たちが一つになって楽しい雰囲気をくれていたと思います。（ボランティア）
- ♪ 年齢、性別、障がいの有無にかかわらず音楽は人を動かすこと、つなぐことを体験することが出来ました。多くの人

にこの活動を知ってほしい、参加してほしいと強く感じたひとときでした。（ボランティア）

- ♪ 「次回はいつありますか」と尋ねられましたのでみなさんがとても楽しく「また次回も来たい、参加したい」と思っていることがよく分かった。（ボランティア）
- ♪ ペアになって活動することによって相手（ボランティアさんたち）に対する信頼感が感じられました。この人と一緒に参加したい、楽しみたいという気持ちが分かりましたのでペアの担当がある一对一の活動はより内容が深められると思いました。いつもありがとうございます。（ボランティア）
- ♪ 午前中の部でちょっとのぞかれた方から「おどれるんですか」ときかれたのでどうぞ参加されて下さいとお誘いしました。ダンスの時に楽しそうに踊られたので本当の意味で誰でも参加して楽しめる活動になっていたかなと思いました。（ボランティア）
- ♪ はじめて参加させていただきましたが主催者、スタッフはじめみなさんの情熱をとて感じられたイベントでした。声をかけて下さりありがとうございました。次回はもっと体力を付けて臨みたいと思います。（ボランティア）
- ♪ 利用者の皆さん（おとなりさんデサービス）がいつも見せないような笑顔をしたり楽しんでいる姿を見ることが出来ました。障害のある人高齢者、私達が一つになって楽しい雰囲気をつくれていたと思います。（ボランティア）
- ♪ 今日とても楽しかった。みんなと交流して笑顔が見られていた。また参加したいと思います。（ボランティア）
- ♪ とても楽しかったです。（地域住民）
- ♪ 音楽療法士とボランティアの方とついてくれたので安心してみていられ、本人が想像以上に楽しく参加できていてうれしい驚きがあった。私も楽しめた。いつもはなかなか参加するのに決心がつかないお友だちも誘ったら、ずっと歩き回っていても大丈夫で、こんな会は初めて、ととっても喜んでいて。次回があれば他のお友だちも誘いたい。（保護者）
- ♪ 12月の城南フレンドホームでのMLAPが楽しかったので、来ました
- ♪ 楽しかった。また来たい
- ♪ うちの子を実際に見てもらってわかると思いますが、動き回って、落ち着いて椅子に座って活動しないので、この前のように自由に動いていい活動なら本人はとても楽しかったと思います。この前のような参加でいいなら、次回も参加したいと思います。いろいろな楽器もあって、私も楽しかったです。動き回ってはいいましたが、本人も楽器も少し鳴らしたり出来て良かったです。外に出ることなく、最後までホールにいたので、好きな活動だったと思います。帰宅後は、特に普段と変わりなく過ごしました。（保護者）
- ♪ 初めての参加でした。ボランティアとしてしっかり役割を果たせたか分かりませんがとても楽しかったです。施設での音楽療法に活かしたい、まねしたい、取り入れたいと思うことばかりだったので勉強になりました。また同じ分野で働く方や学生さんとも交流ができとても良い時間になりました。ぜひまた参加したいと思います。次は施設の利用者さんを連れて行きたいと思いました。ありがとうございました。（ボランティア）
- ♪ 久しぶりに歌ったので全然声が出なかったけど役に立てて良かったです。次回からは事前に歌の練習をしておきます。普段は関わるできないような人とも関わって良かったです。
- ♪ ご高齢の方々と一緒に懐かしい歌を歌ったり、りんりんりんくすとは違った楽器を使っの演奏ができて初めて会った人とも交流できたと思います。りんりんりんくすとは違ったゆっくりなのでみんなと一緒に参加するこ

とがむずかしいような子供でもじぶんなりのペースで楽しめたかと思います。（保護者）

♪ 初めて参加しましたが、総じて楽しかったというのが率直な感想です。障害の有無や国籍、年齢に囚われず、参加者みんなで楽しめるのは音楽の魅力の一つでもあると思いました。普段大きな声を出したり好き勝手に音を鳴らすのは良くないことだと言われがちですが、療育の中だとむしろ歓迎されて、自分を肯定してもらえる体験をすることができると思います。今回、ボランティアに参加したことで、音楽療法でどんなことをしているのか、それがどのように作用していくのかを知ることができて良かったです。どうもありがとうございました。（ボランティア）

♪ 障害がある方と初めて会って、最初はどんなふうに、どんな雰囲気に関わったらよいのか分かりませんでした。障害がある女の子と一緒に歌ったり踊ったりして、最後には笑顔で握手もしてくれて、とても嬉しかったです。みんなと一緒に音楽活動に参加をして、歌や踊り、手話、楽器などをしながら、みんなの笑顔を見られて、とても楽しかったです。私はいつも高齢者施設でアルバイトをしているので、障害者の方と交流する機会がなかったので、とても勉強になりました。歌、音楽は、優しい気持ちになれました。日本の歌を私も練習して覚えたいと思いました。私は社会福祉会ボランティアサークルの部長で、手話サークルの部員なので、もっと手話の歌を覚えたいと思いました。これからも、もっと色々なボランティアに参加をして頑張りたいと思いました。障害がある方々が手話を上手にしていたので、びっくりしました。私は、有名なパプリカの曲を手話で練習して、みんなと一緒に手話の歌をやりたいと思いました。パプリカの手話をすれば、みんなが面白くなり、楽しくなるかなと思っています。手話を頑張りたいです。拍手をもらって自信を持って前に出て踊りなどができるようになった。（ボランティア）

♪ MLAP 活動を通して地域の人や障害を持つ人が共に参加できるドラムサークルやりんりんくすなどの音楽療法のボランティアに参加した。この活動は、好きな楽器を自由にたたいてならしてみたり、ボランティアの私達がバルーンを上下に動かすとそこに入ったりしながら楽しんだ。地域の人や障害児者の方とのコミュニケーションを行う環境作りの一環でこれは、両者の共生社会に必要な事だと考える。今後に活かせる活動だと思う。（ボランティア）



<<アンケート調査結果よりの考察>>

「楽しかったですか？」と「また参加したい」という設問に対して、どちらも94%を超える結果となりました。参加者のこの高い満足度を引き出したその理由のひとつとして考えられるのは、このイベントの実現そのものが障がいとともにある本人の保護者の希望であった事が挙げられると考えられます。できるだけ要

望に沿える様に練られたプログラムであったこと、加えて当日の参加者の反応に応じて選曲、活動進行時のテンポや環境設定など、臨機応変に柔軟性をもった音楽活動を提供できた事も重要な要因として挙げられると考えられます。また、当日は高齢者の飛び入り参加にも対応でき、音楽の柔軟性が証明される結果となりました。それ以外の理由として忘れてはならないのは、このイベントを切望し、期待して参加した参加者の気持ちを受け入れたスタッフやボランティアメンバーが創り上げた温かい会場の雰囲気であったと考えています。今回初めて企画実施した「ゆっくりりんりんくす」に参加された方は、この経験をきっかけに、オープンな活動に参加してみる気持ちになってくださって、活動範囲や人との繋がりが広がって、それが生活の質の向上にも反映されると嬉しいと感じています。



<<連携>>

障がいとともにある本人やその保護者の方、地域施設利用者や地域住民の方々などにも広くこのイベントの存在を知っていただく事になり、更には多くのボランティアとの連携や、地域大学のサークルメンバーとの連携も実現されたと感じています。



すべての地域住民を対象としたワークショップ II

「誰でも楽しめる音楽コミュニケーション ー音で遊ぶ、音で学べるー」

講師：昭和音楽大学准教授 二俣 泉

日時：2019年11月8日（金）

時間：18：30～20：40

場所：香椎副都心公共施設 なみきスクエア音楽練習室（福岡市東区）

参加者：地域住民など約32名

後援：福岡市・福岡市教育委員会

<<概要>>

すべての地域住民を対象に、昭和音楽大学准教授の二俣泉先生にお越しいただいて、「誰でも楽しめる音楽コミュニケーションー音で遊ぶ、音で学べるー」というタイトルのワークショップを開催しました。内容は、先生の講義とともに、実際に声、身体、楽器を使用して参加者を巻き込んだ参加型のワークショップとなり、活気が溢れる充実した時間になりました。また、発達時期から成人になった現在までずっと音楽療法と関わってきた障がいとともにある本人と保護者の方と二俣先生との会談の時間を設け、生活の中に音楽が共にあることで、いかに日常生活が豊かになってきたか、そして現在も継続している音楽活動を通じた社会との繋がりについてのお話ししていただきました。

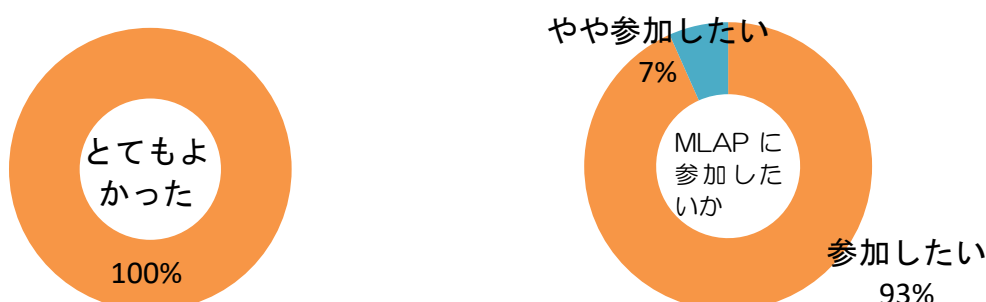


<<参加者の様子>>

講師の先生の指示に沿って積極的に音楽活動に参加してくださいました。楽器も沢山ディスプレイされていて、参加者の方も珍しい様々な楽器を自由に鳴らしてみたりして楽しんでいる様子でした。今回のワークショップについてMLAP 連携協議会一山委員から「・まず先生がとても明るく優しくユーモアがあること・・・音楽療法士が明るく元気に楽しんで歌っているのを見ると自分もやってみようかという気持ちになってくる ・関わり手が参加者を導いていくことができる ・子ども、障がいがある方、高齢者の方がやってみたいと思えること ・興味が湧く、意欲が出る、笑顔、声が自然に出てくる ・相手がいると、より楽しい、楽しめる、一対一の個別活動・・・関わりが深くなる、親しみが出てくる、一緒に楽しみたい・・・コミュニケーション、社会性の向上、余暇活動の充実」とのコメントがありました。

<<アンケート調査結果>>

終了後のアンケートは15名の方が回答してくださっています。「楽しかったですか？」という設問に対しては「楽しかった」もしくは「やや楽しかった」が100%、「また、参加したいですか？」という設問に対しても、100%の参加者が「また参加したい」もしくは「やや参加したい」と回答しています。



- ♪ 初めて参加しました。気付いたらいつも笑顔でパワーがわいてくるような会でした。ありがとうございました。
- ♪ とても楽しかったです。人生の中で楽しいものの一つに音楽があると良いなと思います。そのためにどうしたらいいのかと思います。
- ♪ 楽器をさわって楽しかったです
- ♪ 特別な知識が無くても分かりやすく参加する楽しさがあり、来て良かったです。人との関わりの中で活かせることがありそうです。不登校の子が音楽を通して自信を取り戻した経験があります。同じ悩みを持つ親御さんのために思春期の子ら対象にも広がってほしいと思いました。
- ♪ とても楽しいひとときでした。自分自身が音楽を楽しむということを忘れていたなと感じました。あらゆる人に生涯音楽プロジェクトっていいですね。機会があればまた参加したいと思います。
- ♪ いつも大変楽しくて有意義な企画を誠にありがとうございます。非常に勉強になりました。
- ♪ 実際に身近に実践できることもたくさん教えて下さりとても参考になりました。

- ♪ いろんなことができたから楽しかったです。
- ♪ 楽しいワークショップでした。ありがとうございました。子どもたちと音楽を通じてもっとコミュニケーションをとっていいと思います。
- ♪ 二侯先生、いつも感激しています。
- ♪ 今回は飛び込みだったので少しの時間しか参加できませんでしたが、次は最初から参加してみたいです。
- ♪ 音楽療法を実際に体験することが初めてで楽しく思いました。「音」「音楽」は世界共通の言語ですね。他人を責めるばかりの現代社会と違い絶対に他人を傷つけることのない人を心地よくさせる言語ですね。

<<アンケート調査結果よりの考察>>

参加者にとっては、とても高い満足感を感じていただいたという結果になった。MLAP の活動にも興味を抱いてくださっている参加者も少なくない事が分かったので、今後このデータを MLAPPERS 発掘の活動に繋げていきたいと考えています。

<<連携>>

障がいとともにある本人やその保護者の方、地域施設利用者や地域住民の方々、また専門家の方などにも広く超参加型音楽イベント MLAP の存在を知っていただく事になり、将来 MLAPPERS として一緒に活動をしてくださる MLAP の活動に興味を持った専門家の方の啓発と発掘にも繋がっていく企画ではなかったかと考えています。



すべての地域住民を対象としたシンポジウム Ⅱ

「音楽で変わる！音楽でつながる！」

心地よい地域共生社会のコミュニティ構築を
—超参加型音楽イベント MLAP がかけ橋に—

日時：2019年12月21日（土） 時間：10:00～12:00

場所：福岡市立博多小学校 表現の舞台（福岡市博多区）

参加者：地域住民など約16名

後援：福岡市・福岡市教育委員会

コーディネーター：野口 信介 氏 福岡市発達教育センター所長

シンポジスト1： 日隈 富貴雄 氏 社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会
指定障がい福祉サービスひまわりパーク上牟田施設長

シンポジスト2： 中村 成吾 氏 福岡大学3年同大学ボランティアサークル元在籍

シンポジスト3： 大神 和恵 氏 重度の知的障がいのある子どもをもつ保護者

シンポジスト4： 下山 大地 氏 重度の知的障がいのある本人

指定討論者： 米倉 裕子 氏 MLAP コーディネーター・音楽療法士

司会： 下山 いわ子 氏 福岡市手をつなぐ育成会保護者会長



<<概要>>

すべての地域住民を対象に、コーディネーターに福岡市発達教育センター所長の野口信介氏、指定討論者として MLAP コーディネーター・音楽療法士の米倉裕子氏を置き「音楽で変わる！音楽でつながる！心地よい地域共生社会のコミュニティ構築を一超参加型音楽イベント MLAP がかけ橋に一」というテーマでシンポジウムを開催しました。

1 人目のシンポジストとして、指定障がい福祉サービスひまわりパーク上牟田施設長日隈富貴雄氏より、今年度における超参加型音楽イベント MLAP と施設利用者との出会いから、継続して MLAP に参加することによる施設利用者の行動の変化についての報告をしていただきました。利用者が日頃見せない積極的な姿勢を見せたり、聴覚障がいのある方は最初は全く興味を示さなかったが、一度体験した後は、とても楽しかったのもう一度体験したいと変わり、利用者の方が MLAP の活動を心待ちにするようになったという様子を映像で紹介されました。また、課題としてこの実践研究の期間終了後をどのように実践していくのか、例えば申込の窓口はどこにするのか、謝礼はどうするのか、など課題の提言もありました。

2 人目のシンポジストとして、福岡大学3年同大学ボランティアサークル元在籍の中村成吾氏より、MLAP の活動にボランティアとして参加したその経験から本人の思いについて述べていただきました。ボランティアで障がい者とかかわるまでは、障がい者を避けていたところがあったが、MLAP をはじめいろいろなところでボランティア活動をして障がいのある人たちとかかわって、知ること、自分たちと変わらないことや、子どもたちが MLAP をとおして成長する姿をみていると、今まで障がい者とは高い壁があると感じていたものが低くなり、一緒に活動することが楽しくなった、障がいのある人たちが MLAP をとおしてコミュニケーション力が高まるというような成長を感じるとともに、自分自身の包容力がついているなど、人として成長を感じている、今後、社会に出ても今の活動が役に立つと思う、という発表でした。また、障がい者を知らないと避けてしまうこともわかるので、MLAP のように自然と障がい者と知り合える場は非常に意義がある、との発言もありました。

3 目のシンポジストとして、重度の知的障がいのある子どもをもつ保護者である大神和恵氏より、ご家族の不幸な出来事でご本人の気持ちが落ちこんでいる時にも、継続して参加している音楽療法のグループ活動には休まずに行く事ができた、というエピソードをお話ししてくださいました。学校や家庭でも様々な要因で落ち着かない状態であっても、MLAP の参加は、本人も意欲的になり、落ち着いて楽しんでいる様子が見られる、ただ、今は保護者が連れて行って参加できるが、保護者が連れていけなくなった時でも参加ができるように身近な場所で、安心して参加できるような場が広がることを願っている、という発表でした。

4 人目のシンポジストとして、重度の知的障がいのあるご本人の下山大地氏より、継続して参加している音楽療法のグループ活動や超参加型音楽イベント MLAP にボランティアとして参加している気持ちと、これからも継続して活動をしていきたい、という気持ちを話してくださいました。

参加者からも、MLAP のような場が広がることを願っている、そのためには、行政や地域が障がい者と知り合い、協力し合うことが必要などの意見や感想がありました。

最後に、コーディネーターの野口信介氏よりまとめとして、音楽というツールや MLAP の実践活動の有用

性は明らかであったので、この MLAP の活動が、多くの人に周知され、いろいろな人が連携し、身近な場所で MLAP が実践されるようになると、人と人とのかけ橋となれるのではないかと想像できる、研究事業としては、この想像を実現するように根拠をもとに実証できるよう、実践を計画的に広げ進めなければならない、と締めくくられました。

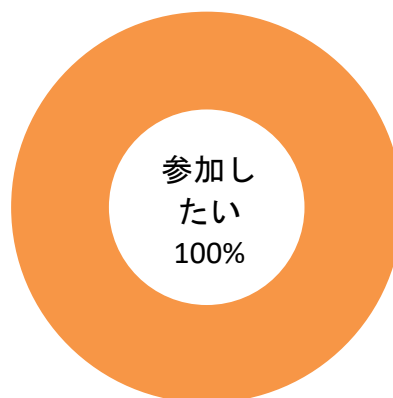
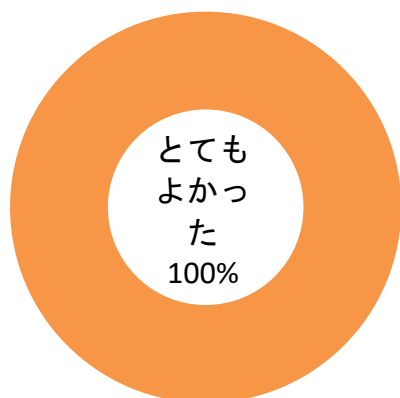


＜＜参加者の様子＞＞

参加者は15名ほどで、みなさんとても熱心に報告を聞いて活発な意見を出してくださいました。このワークショップについて MLAP 連携協議会一山委員から「・発語が難しい息子さんが安心して参加できる場である ・非常に辛い状況に置かれていても、MLAP に落ち着いて参加できる ・親御さん、家族、息子さんご本人にとって守られる場所 ・全ての人たちにとって有意義な場所 ・障がいがある方と初めて交流してとても勉強になった」とのコメントがありました。

＜＜アンケート調査結果＞＞

終了後のアンケートは12名の方が回答してくださっています。シンポジウムが良かったと答えた方が100%で、超参加型音楽イベント MLAP に参加したいと答えた方も100%でした



- ♪ このような活動があると今回初めて知りました。ワークショップに少しですが参加できて楽しかったです。まずは口コミで広めたいと思いました。ホームページもあるといいですね。(あったらすみません。)
- ♪ 表現の舞台はスクリーンが大きくて見やすく自由に着座できるのも堅苦しくないシンポジウムになって良かった(ちょっと冷えましたが)。楽しむことが大事。継続することが障がい者や地域にとってもプラスになる。広げる、続け

るための発展的な課題を知ることが出来た。

- ♪ またたくさんの地域で催しが開催されることを望みます。
- ♪ MLAPに参加させていただいた学生達が次回の活動参加を楽しみにしておりました。いつもありがとうございます。
- ♪ 初めて参加しました。初めて知ったのでHPとかあると拝見したいです。
- ♪ 様々な分野のパネラーの方のお話が伺えてMLAPについて理解が深まりました。ありがとうございました。
- ♪ もっと多くの方が参加されたらと思いました。
- ♪ 地域共生社会作り具体的なツールになり得ると感じる。音楽の力はすごい！

<<アンケート調査結果よりの考察>>

超参加型音楽イベント MLAP に興味があるかもしくは既にかかわった経験のある方が来てくださっていたせいもあり、高い評価をもらえたと考えられます。



<<連携>>

実際に超参加型音楽イベント MLAP に様々な形で参加してくださった方たちやその施設の方からの報告であったことから、誰でも参加可能な音楽イベントを介した共生社会の実現という MLAP の方向性もしっかりと見据える事が再確認できて、連携の糸が更に強くなったように感じました。



文部科学省実践研究事業2019MLAP 実践報告会

あらゆる人に生涯音楽プロジェクト

基調講演「福岡市の障がい者生涯学習の現状と今後の展望」

福岡市教育委員会生涯学習課 課長 牟田 智佳 氏

日時：2020年2月8日（土） 時間：10:00～12:00

場所：福岡市市民福祉プラザホール（福岡市 中央区）

参加者：関係者・地域住民など 約70名

後援：福岡市・福岡市教育委員会

参加してくださった方々：

文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課障害者学習支援推進室 室長補佐

星川 正樹 氏

福岡市議会副議長

楠 正信 氏

福岡市議会議員福祉都市委員会委員長

大坪 真由美 氏

福岡市議会議員福祉都市委員会副委員長

近藤 里美 氏

福岡市議会議員教育こども委員会

池田 良子 氏

福岡市手をつなぐ育成会保護者会

副島 啓一 氏

春日 祥子 氏

溝口 真奈美 氏

他、多数の皆様にご来場していただきました。



定例実践報告 1

障がいがある本人を対象とした個人音楽療法〈ほっぷ！〉



実施期間：2019年7月～2020年1月

実施回数：7回

場所：福岡市立城南障がい者フレンドホーム
内日常生活訓練室（福岡市城南区）

参加者：個人を対象とした音楽療法希望者
5名（内4名・学卒者）

定例実践報告 2

障がいがある18歳以上を対象とした小グループ音楽療法「ノートン」

実施期間：2019年7月～
2020年1月

実施：6回

場所：福岡市立城南障がい者フレンド
ホーム内機能訓練室（福岡市城南区）

参加者：小グループを対象とした音楽
療法希望者3名



社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会障がい者支援施設
福岡ひまわりの里における音楽療法（余暇活動）

MLAP としてデータ収集をした期間：2019年11月～2020年1月

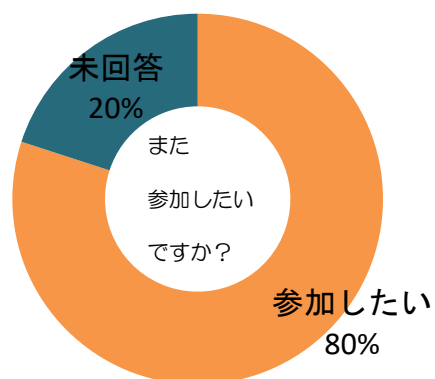
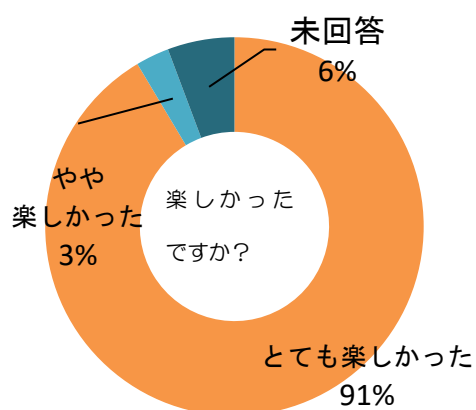
実施回数：3回

場所：社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会障がい者支援施設福岡ひまわりの里
作業室（福岡市西区）

参加者：施設利用者のうち音楽療法参加希望者 約10～12名



<<アンケート結果より>>



♪ 今年の「音楽療法は楽しかった。来年も参加したいと思います。

大学生を中心としたボランティア養成講座

実施期間：2019年7月～2020年2月

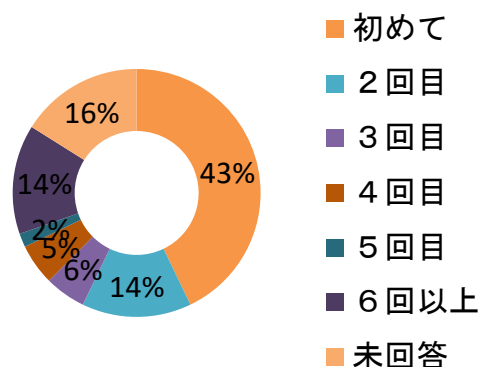
実施：8回

場所：福岡市立城南障がい者フレンドホーム 日常生活訓練室 (福岡市城南区)

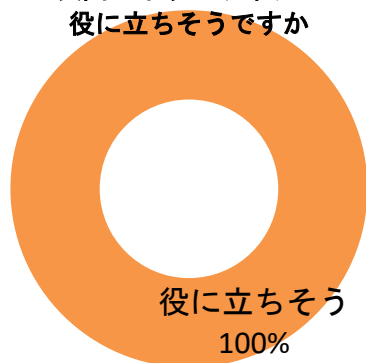
対象：障がいがある小6までの児童を対象としたグループ音楽遊び「ビートン」のボランティアを対象に実施

実施期間中に、ボランティア講座に参加した人数は、延べで56名で、内6回以上参加しているメンバーは14%という結果であった。講座の内容についても、障がいがある小6までの児童を対象としたグループ音楽遊び「ビートン」のボランティアで役に立ちそうかという設問については、100%「役に立ちそう」という結果でした。また、障がいとともにある人との共生社会についての講座内容については、日常生活でも「役に立ちそう」または、「やや役に立ちそう」合わせてほぼ100%という調査結果でした。

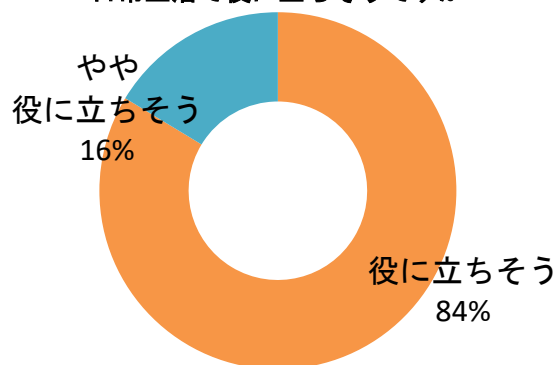
参加するのは何回目ですか



次回のボランティアで役に立ちそうですか

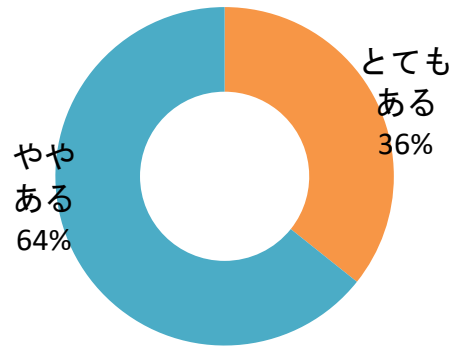


日常生活で役に立ちそうですか



MLAP の活動について「興味がある」、もしくは「やや興味がある」と回答したボランティアは合わせて100%でした。「ビートン」の活動だけではなく、これから開催予定の超参加型音楽イベント MLAP の活動への積極的な参加が期待できます。

MLAPの活動に興味があるか



<<アンケート調査結果自由表記より>>

- ♪ もっと時間を長くしても良いと思った
- ♪ 音楽は誰でもやる事が出来るので他の色々な人と関わってみたいです。
- ♪ 初めて参加して事前準備について考えていなかったのですが次の参加では事前準備をしっかりと取り組みたいと思います。
- ♪ 接し方が分からず終わったのが悔しいです。
- ♪ 今日一緒にビートンに参加した子が目が合わなくてどうしたらいいかな？と考えていたので良かったです。
- ♪ 自分が思っていたよりも子どもたちが元気に歌を歌っていたりダンスをしたり楽器を演奏したりしていてすごく元気でした。
- ♪ とても楽しく活動できました。
- ♪ 安全を配慮すること、周りの人を楽しませられるように視野を広げる大切さを学びました。
- ♪ 衛生面や安全面に気をつけて活動していきたいと思いました。
- ♪ 初めての参加でなれないこともありましたが私自身も一緒に楽しめたのかなと思います。
- ♪ 2回目でもまどうことも多いのですが1回1回の貴重な経験を得て反省して次回の活動に活かしていければいいなと思います。
- ♪ 子供とのより深い関係、関わりをもつ重要性を学びました。子供が何に注目しているか考えているか子供の目線で考えることが大切であると思いました。
- ♪ 今回は小さな子とのふれあいだったけどもっと広い年代の方ともふれあいをのばしていきたい。
- ♪ 子供にリードしてもらって、学生がリードするバランスが大切だと思いました。こどもたちに頼ることで子供の成長へつながると思います。
- ♪ 自分のサークルにも活かしたい
- ♪ こどもの反応一つ一つに意味があって私達の言動一つ一つにも大きな影響をもっていると改めて思った。
- ♪ 音楽があるからこそ楽しめることもあるのでまた参加したいです。
- ♪ こどもとの仲良くなり方など色々知れたので良かった
- ♪ 私自身親戚にダウン症をもつ人がいていつもうまく関われていないと感じるので、今回音楽を通して関わり方を学ぶことが出来た。

音楽療法士を中心とした勉強会「LINKS」



実施期間：2019年7月～2020年1月

実施： 8回

場所：福岡市市民福祉プラザ内音楽室・会議室・和室など（福岡市中央区）

対象：音楽療法を教育機関で専門的に学んだ経験があり、音楽療法を実践している専門家を中心にして2007年から実施している勉強会で、名称は「博多音楽療法コミュニティLINKS」、MLAPを実践している「Mrappers」の中心的存在、現在は11名である。

MLAP キャラクター「むらっぷう♪」



視察報告



第19回日本音楽療法学会学術大会

日時：2019年9月21日（土）～22日（日）

場所：大阪国際会議場

視察者：MLAP コーディネーター米倉裕子

博多音楽療法コミュニティ LINKS 中田哲也

成果1：MLAP の広報、啓発及び MLAPPERS の発掘

成果2：MLAP 活動のアイデア収集

成果3：超参加型音楽イベントのアダプテーションのアイデア収集



渋谷ズンチャカ

日時：2019年9月8日（日）

場所：東京都渋谷の街

視察者：MLAP コーディネーター

米倉裕子

概要：街を舞台にしたみんなでつくる音楽フェスティバルに参加予定だったが、台風のため中止





社会福祉法人太陽会 障がい者支援センター
SHOBU STYLE

日時：2020年1月19日（日）

場所：鹿児島県鹿児島市吉野町 5066

視察者：MLAP コーディネーター

米倉裕子

成果1：地域住民が行きたくなる場と
としての施設の工夫と在り方
への学び

成果2：ものづくりをセンターにおいた
やりたい事をやるという創造
的活動を中心に利用者の生き
がいを引き出しており、それ
には音楽活動も含まれている

成果3：アートを中心にしたコミュニ
ティーデザインの在り方

☆JOY 倶楽部 ミュージックアンサンブル

ハートフルコンサート 16th

～天使が奏でるハーモニー～

日時：2019年6月18日（火）

場所：アクロス福岡

視察者：博多音楽療法コミュニティ LINKS 柴田 佳世子

成果1：観客を巻き込んでの十八番のダンスの在り方

成果2：馴染みのプログラムの大切さ

成果3：シンプルな振り付けで歌う活動の情報獲得

MLAP に連続して参加したひまわりパーク上牟田 利用者の変化について ケーススタディー

MLAP との交流を通して

福岡市手をつなぐ育成会 ひまわりパーク上牟田
施設長 日隈富貴雄

ひまわりパーク上牟田



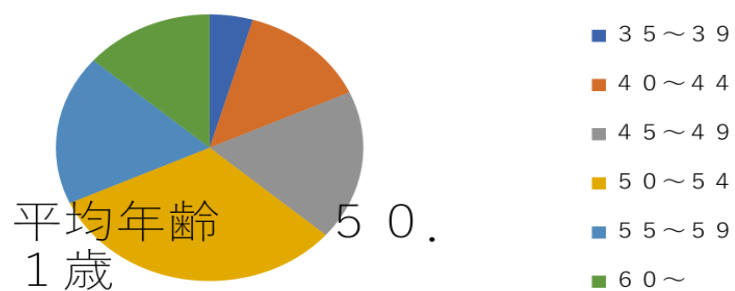
ひまわりパーク上牟田

- 就労継続支援事業A型 （ 移動班 ）
愛宕や百道の海岸清掃。
天神や博多区の公園清掃。
- 就労継続支援事業B型
様々な仕事に取り組んで工賃を得ている。
- 生活介護事業
自立に向けた訓練を重ねている。

B型の仕事



年齢構成



<3回の実践>

1

保護者との交流 令和元年.8.30



2

育成会交流事業 令和元年.11.14





3

上牟田地域交流 令和元年.11.17



＜職員からの質問に対する MLAP 参加利用者の答え＞

Q1.楽しかったですか。 A.楽しかった。（全員）（初回も花を楽しいの方に入れてくれました）

Q2.上牟田にまた、MLAP に来てほしいですか。 A.来てほしい。（全員）

Q3.何が楽しかったですか。 A.歌、楽器演奏、ダンス（体を動かすもの）、手話の歌

Q4.また、参加したいですか。 A.参加したい。（ほとんど）

＜利用者 A さん（視覚障がい）の変化＞



楽器演奏にも意欲的で、表情に笑顔が多く見られた。



楽器演奏は自分から希望。交代せず最後まで演奏。感動で泣く。

＜利用者 B さん（聴覚障がい）の変化＞



下を向いていた。
参加しきれていない
面を感じた



手話の歌と打楽器の
振動で、気持ちも
前向きに。



楽器演奏では自分から
前に出た。自分から
楽しむことが出来た。

○最初は、「自分は聞こえないから音楽は嫌いだ。」と言っていた。活動に否定的であった。



○手話の歌が楽しかった。太鼓の振動がよかった。

○聴覚障がいの方々のために、健常者と共有できる手話の歌やダンスを考えて欲しい。

○初めはとても抵抗があったが、楽器に触れ、体に振動を感じ、体を動かすうちに、音楽が好きになった。

MLAP の活動を心待ちにするようになった。

<<職員の感想・意見・変化>>

Q1. MLAP との交流は利用者にとって良かったですか？

- A.
- ・全員が「良かった」と回答
 - ・参加型で楽しめた。1人1人が主役になれる。活動が解りやすい。どんな年代でも対応できる。音楽はきくだけでない。

Q2. MLAP の活動を通して利用者の変化はありましたか？

- A.
- ・自分から手を挙げて参加した。笑顔がたくさん見られた。
 - ・MLAP の方から声をかけて頂いてから意欲的になった。
 - ・何事にも積極的ではないが、楽器を持って主体的に参加していた。

Q3. MLAP との交流は続けたいですか？

- A.
- ・全員が継続的な交流を希望している。

Q4. MLAP との交流で気になることは？

- A.
- ・活動内容（選曲やプログラム等）はどのように決めているのか。
 - ・相手のニーズはどのように把握されているのか。
 - ・障がいの特性に合わせた対応はどのように工夫されているのか。

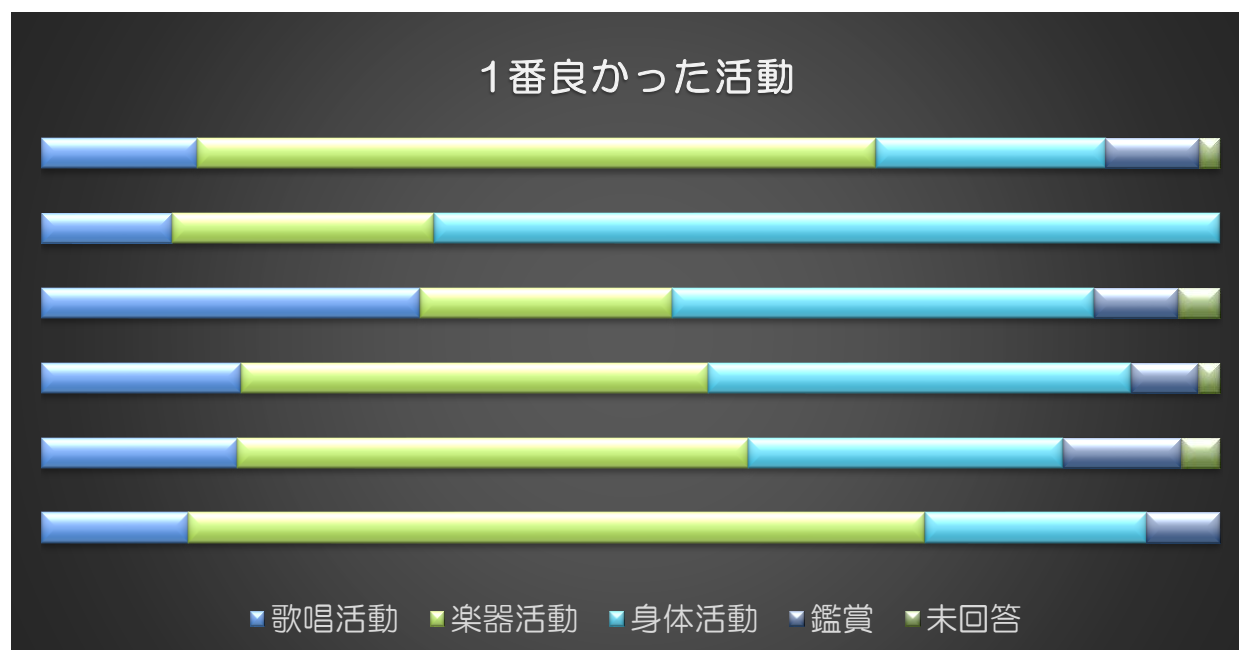
Q5. 今後のかかわりに関して

- A.
- ・実践研究が終わった後の連絡先・費用の問題等どうなるのか。
 - ・提起的に活動しているイベント等はあるのか。
 - ・どこに行けばよいのか。
 - ・参加費は。



学習プログラム構築を見据えた調査結果

超参加型音楽イベント MLAP において、最適な障がい学習のプログラムを構築する手段のひとつとして、今年度は意識的に「歌唱」「楽器」「身体」「鑑賞」の4つの音楽活動を必ず実施して、イベント終了後にどの活動が1番良かったか、というアンケート調査を実施しました。以下の6つのグラフはそれぞれのイベントにおける集計の結果を表したグラフです。



それぞれのイベントによって「1番良いと感じた活動」に差が出た理由としては、それぞれの超参加型音楽イベント MLAP 参加者の年齢、性別、し好、環境といった様々な要因による影響が考えられます。それらを踏まえた上で、調査を実施した超参加型音楽イベント MLAP の6つのイベント全ての調査結果を集計したのが次のグラフです。

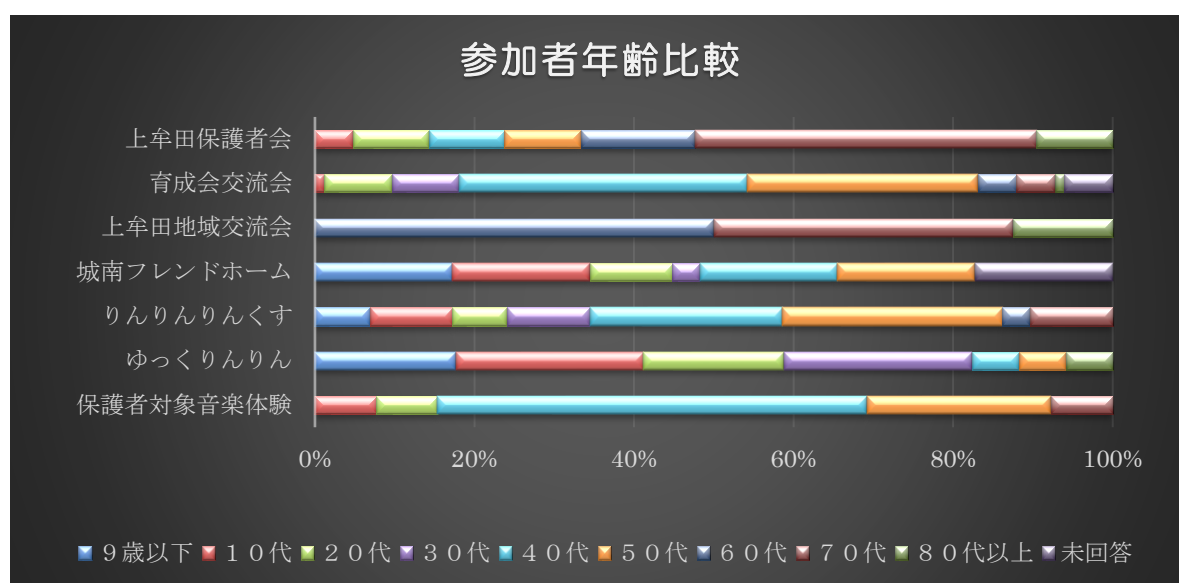


調査の結果、「歌唱」「楽器」「身体」「鑑賞」の活動の中で1番人気があったのは、「楽器」の活動であった事がわかりました。また、次に良かったと感じた活動は「身体」活動でした。この結果から考えられるのは、

おそらく「楽器」活動と「身体」活動が視覚的にも刺激があるからということから、参加者に何をする活動なのかがわかりやすいという事がいえるのではないかと考えています。

そして、「鑑賞」の活動の人气が4位だったという結果からは、やはり超参加型音楽イベントならではの、能動的な活動が、参加者には楽しんでいただけているのではないかと考えています。

次のグラフは、今年度開催した7つの超参加型音楽イベント MLAP の参加者を年齢別で分けたものを比較したグラフです。



「誰でも参加が可能である」事をキャッチコピーにしている超参加型音楽イベント MLAP らしく、オープンな環境で開催した音楽イベントの参加者の年齢層には特にばらつきがみられます。

今年度の調査結果をふまえると、今後は、人気の高い楽器活動を中心に、しかしながら他の「歌唱」、「身体」、「鑑賞」の3つの活動についても、幅広い年齢層の参加者や個性のある参加者ひとりひとりの多様なニーズにできるだけ沿えるように、また、参加者には音楽活動の中でできるだけ沢山の種類の経験をしていただけるように、バランス良く、バラエティーにとんだプログラムの構築の調査を進めていきたいと考えています。可能であれば、より効果的な生涯学習プログラム構築の為に、超参加型音楽イベント MLAP におけるプログラムの順番や活動全体のエネルギーダイナミクスと参加者のし好の相関関係についても調査を進めていければと考えています。

今後の MLAP の展開

♪音楽療法の視点から、障がい児・者の発達段階に応じた個人や集団を対象にした 音楽療法的アプローチ、集団音楽遊びなどを組み合わせ、専門家が障がい特性を生かす勉強会を重ね、MLAP 活動を支援するボランティアの養成を図りながら、年齢・性別・国籍・障がいの有無などに関わらず地域住民の誰もが参加できるような生涯学習プログラムとしての超参加型音楽イベント MLAP を実行する為のシステムの構築と人員体制づくりを進めていきます。

- | | |
|-------|--|
| 可能性 1 | コミュニティ対象の超参加型音楽イベントの実施
・実施場所の開拓
・オープン型と同時にセミクローズ型も同時に実施
(継続して実施、追跡調査) |
| 可能性 2 | コミュニティ対象の参加型音楽イベントの特定の参加者の変化についての調査実施 |
| 可能性 3 | 4つの要素(歌唱・楽器活動・身体活動・鑑賞)をどのように組み合わせて構成していくと生涯学習プログラムとして有効に機能するのかを検証する |
| 可能性 4 | 超参加型音楽イベントのインストラクター (MLAPPERS) の発掘・トレーニング |
| 可能性 5 | 生涯学習プログラムとしての MLAP のために、様々な人たちとの連携を構築すること |

連携協議会開催報告

第1回連携協議会

日時：2019年 6月 19日（水）16：00～18：00

場所：福岡市市民福祉プラザ4階 応接室 2

司会：下山 いわ子

内容：今年度の活動計画について・実践研究についての説明など

第2回連携協議会

日時：2019年 8月 26日（月）10：00～12：00

場所：福岡市市民福祉プラザ4階 応接室 1

司会：下山 いわ子

内容：活動経過報告・実践研究経過報告

第3回連携協議会

日時：2019年 11月 19日（火）15：30～17：30

場所：福岡市市民福祉プラザ4階 応接室 1

司会：下山 いわ子

内容：活動経過報告・実践研究経過報告・シンポジウムに向けての協議

第4回連携協議会

日時：2020年 1月 28日（火）13：00～15：00

場所：福岡市市民福祉プラザ4階 応接室 3

司会：下山 いわ子

内容：活動報告・実践研究報告・報告会に向けての協議・来年度に向けての意見交換



連携協議会構成員



米倉 裕子	MLAP コーディネーター・音楽療法士
牟田 智佳	福岡市教育委員会教育支援部生涯学習課長
氷室 剛	福岡市保健福祉局障がい者部障がい企画課施策企画係長
野口 信介	福岡市発達教育センター所長
日高 徹	福岡市立屋形原特別支援学校長
小山 浩俊	福岡市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係長
一山 幸子	西日本短期大学社会福祉学科教授
水野 英尚	地域生活ケアセンター小さなたね所長
清家 信二郎	福岡市立城南障がい者フレンドホーム生活指導員
竹内 巖	社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会 指定共同生活援助事業早良ひまわりハウス施設長
日隈 富貴雄	社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会 指定障がい福祉サービスひまわりパーク上牟田施設長
天野 秀樹	DCFA 協会員 福岡ドラムサークル主宰者
前田 かおり	DCFA 協会員 福岡ドラムサークルメンバー
近藤 綾子	音楽療法士 精神保健福祉士
山崎 順子	知的障がいのある本人
下山 いわ子	福岡市手をつなぐ育成会保護者会長

MLAP 連携協議会委員の MLAP への想い

♪＜福岡市発達教育センター所長 野口 信介 委員＞

1 MLAP に対する思い

共生社会の実現という言葉は社会に根付いてきていると思いますが、個人レベルで何かをしようとする「私は何をすればいいの?」と悩んでしまう方も多いと思われます。

障がいのある方にとってもない方にとっても、同じ目線で参加や参画できる場があると、共生社会のありように対して考えるきっかけになる気がしています。

そのきっかけを与えてくれる一つの例が、MLAPではないかと考えています。

障がいのある方にとっては、達成感を味わえる参加型音楽会だからこそ、自尊感情を高められることはもちろん、他の方との快のかかわり（感情）を通して社会参加に向けた自立の基礎を学ぶことができると考えます。

障がいのない方にとっては、自由な表現を基盤とする音楽を介してのコミュニケーションの場であるため、無理なく障がいのある方と共に活動する時間が得られます。このことで、障がいのある方とのかかわり方や共に楽しむことを経験的に理解することができるのではないのでしょうか。

障がいのある方もない方も、共に得られるものがあるからこそ意味がある活動であり、価値がある活動となっていると考えています。参加者の表情のよさはもちろん、運営するスタッフの笑顔にもそのことが表れていると思います。

一見、MLAPは、音楽だからこそできる世界観のように感じるかもしれませんが、音楽というフィルターを、芸術やスポーツというフィルターに置き換えても汎用可能な「参加型」という活動の構成原理があることに意義を感じます。

今後も、様々な可能性を模索しながら、さらなるMLAPの拡充を期待しています。

2 MLAP への期待

これまでの2年間で、参加者の参加意欲、活動の満足度について調査がなされ、ともに良い結果が得られていることは喜ばしいことだと思います。今後は、なぜ、そのような結果につながっているのかということ、方策と照らして検証することが望まれます。

そのため、このMLAPでは、「参加型」を具体化するために、どのようなことを大切にしてきたのかを整理する必要があります。（手立ての焦点化）

また、プログラムとして、4つの要素（歌唱・楽器活動・身体活動・鑑賞）それぞれがもたらす効果を整理し、活動の組み方（順番や割合）で、初級、中級、上級のように段階の踏んだカリキュラムができるのか？障がい種によって効果的な構成の仕方があるのか？などを探ってみるのもよいかと思います。（持続可能なプログラムの具体化）

また、支援者育成プログラムを、初級編、中級編、上級編というように構想していけば、今後の支援者育成マニュアルに発展しそうな気がします。今後は、参加型音楽会を「誰もが創れる音楽会」へと高められるといいなと感じます。

♪＜福岡市立屋形原特別支援学校校長 日高 徹 委員＞

1 MLAP に対する思い

障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究として、卒後の障がい者に中心に、参加型音楽活動を軸として展開されてきました。

私は、音楽はボーダーレスだと思っています。あらゆる人が自分なりに何かを感じ、あるいは表現し共感できるものは、音楽しかないと思います。

2 年間の実践の中で、明らかに表情や言動に変化が出た事例をいくつも聞くにつれ、「あらゆる人に生涯音楽プロジェクト」は過言ではないと強く思っています。

今後さらにこの実践が進んでいくことを願っています。

2 MLAP への期待

この 2 年間、いろんな実践を続け、実際に経験した方々からは多様な変化が表れています。しかし、MLAP が思うように広がっていかないことに、無念と反省を感じています。

もっともっとアナウンスをして広げていきましょう。いかにして、実際に体験する人を増やしていくかがこれからの課題だと思います。

♪＜福岡市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係長 小山 浩俊 委員＞

1 MLAP に対する思い

MLAP で活動をした大学生のボランティアが「今まで障がいのある人と関わる機会がなかったが、活動を通じ障がい者のことを知り考え方が変わった」と話していました。私自身、過去にボランティアを通じて似たような経験があり、やはり「実際に関わり、一緒に何かをする」という経験はかけがえのないものだと思い改めて感じました。

MLAP の参加型音楽会は、言葉や思考を越えて、自然にそこにいる人たちと場を共有できたり、一体感を感じられる瞬間があります。何よりそれを楽しみながらできるということは、「音楽」というツール(音楽の持つ力)だからこそなのかもしれません。

2 MLAP への期待

私たち社会福祉協議会は、地域で人と人のつながりを生む取組みを多様な方々と協力して進めて

います。ただ、地域で暮らす多くの住民にとって、障がいのある人と関わる機会や障がいについて知る機会はまだまだ少ないと感じます。

今後の地域共生社会づくりを進めていく上で、MLAP の取り組みは、障がいの有無に関わらず楽しみながら参加・交流できるプログラムとして、期待と可能性を感じています。

障がいのある方にとっては社会参加や豊かな地域生活へつながる機会になるという点、住民にとっては障がいへの理解が広がる機会になるという点、また、プログラムの中で障がいのある人も(希望する人は)前に立って主役になれる機会があり「誰もが役割・出番のある社会」に通じている点でも意義を感じています。

身近な地域に、MLAP のような場が当たり前にあり、多様な人々が参加して自然に関わり合ったりつながったりしている…そんな社会になれば良いですね。



♪＜西日本短期大学社会福祉学科教授 一山 幸子 委員＞

1 MLAP に対する思い

1) 下山会長様、米倉先生が日々懸命な努力をしておられるお姿を拝見して、私もできる限り頑張りたいと思いました。これが私の一番の原動力になっております。本当にどうも有難うございます。

2) 米倉先生は、西日本短期大学で音楽療法の授業をご担当頂いた当初から、ずっと「音楽療法をもっと皆さんに知ってもらいたい、音楽療法士の資格を西日本短期大学でも取得できるようにしてもらいたい、地域に音楽療法の活動を

広げていきたい」と訴え続けてこられました。本学では、介護福祉士養成カリキュラムが一杯一杯で時間割の中に、これ以上科目を増やせない等の意見が優勢であったため、なかなか米倉先生のご希望に沿うことができませんでした。残念ながら本学に音楽療法士養成コースの創設ができず大変申し訳ない気持ちで一杯でございます。

3) しかし、学生達は音楽療法の授業をととても喜んで受講しています。米倉先生の音楽療法は、留学生も日本人も障害がある方も無い方も、自然に楽しむことができる魔法のようなものだと思います。赤ちゃんや子どもは、音楽が聞こえてくると、自然に体をリズムに合わせて揺らしたり、踊ったりします。胎教も有効です。音楽は本能的なものであると思います。

4) 日隈先生は、職員にも利用者の方にも厳格なお方だと感じました。それは、心から職員、利用者の方の

ことを考えていらっしゃるからであると感銘を受けました。本学の学生も実習の時に厳しくご指導頂きました。それは非常に有難いことです。本人にとって、本人の人生、将来にとって必要なことであるからこそ、甘やかすことなくきちんとご指導して伝えていらっしゃるのだと痛感いたしました。日隈先生のお人柄が非常に感じられ私も連携協議会委員にならせて頂き、日隈施設長様にお会いできましたこと心より感謝いたします。

5) 私は MLAP に参加をして、自分自身もムラッパーになれるように頑張っていきたいと思っております。他の友人、知人、学生達も巻き込んでいきたいと思っております。全然力不足ですが、ご指導の程、どうぞ宜しくお願いいたします。

2 MLAP への期待

1) 学生達が勉強させて頂けることが非常に有難いことです。私達教員は、学生達にとってより良い環境で学べる教育環境を提供する役割があります。MLAP は、社会福祉、介護福祉を学ぶ学生達にとって、体験を通して学ぶことができる（障がいがある方々のこと、関わり方、自己覚知、など）本当に貴重な教育の場です。もちろん MLAP は、社会福祉を学ぶ学生だけでなく福岡大学学生のように学科を問わず人間教育として必要な貴重な教育の場でもあります。

そして、学生自身も音楽によって、人との関わりによって喜び、楽しみ、思い出となる体験となります。MLAP 体験後もボランティア意欲、学習意欲が向上します。

2) ボランティアの体験だけでなく、ボランティア養成講座があることもまた魅力があります。事前学習、実践実施、事後学習が行えるボランティアは、あまりありません。このことから、MLAP 活動は、学生達にとって素晴らしい学びの環境を与えて頂いております。

3) ひまわりパーク上牟田の利用者様が、聴覚障害の方が手話の歌の体験を通して音楽療法を希望されるようになったこと、視覚障害になられた方が自分から楽器を鳴らそうとするようになったこと、自分で会場へ出向いて行き1月の MLAP 活動に参加することができた余暇活動を行えるようになったこと、等々利用者の方々の変化の様子が目前に現れ、感動、感激の気持ちで一杯になりました。今後も、利用者の方々のこのような豊かな生活への変化が見られると期待できると考えます。これからの MLAP の活動展開がますます期待されます。

4) 下山会長様率いる福岡市手をつなぐ育成会保護者会及び福岡市手をつなぐ育成会がしっかりと MLAP 事業を支えておられるため、大きな行事もこなしていけるのだと感動いたしております。

5) それゆえ、MLAP 活動は、3年間でなく、ずっと長くこれからも続けていって頂きたいと心から強く願っております。微力ながら、私自身も、学生達、他教員もご協力させて頂きたいと願っております。非常にご苦勞が多く大変なことと存じますが、どうぞ今後とも、よろしくお願い申し上げます。

♪＜福岡私立城南障がい者フレンドホーム生活相談員 清家 信二郎 委員＞

1 MLAP に対する思い

活動を実施している皆様が様々に模索しながら苦心惨憺して MLAP を展開しておられることをひしひしと感じます。城南フレンドホームで実施されたクリスマス会の中での MLAP は参加者にとってとても新鮮だったと思います。本年度、昨年度と2年連続実施して頂きましたが、2回とも参加者が楽しんで受けてくれたのが印象的でした。

定期的に音楽療法士の皆さんが学習会を開き、その都度研鑽されているとのことなので、更に完成度の高い内容で活動されるものと思います。

2 MLAP への期待

音楽療法としては、これまで close スタイルとして長年実施して来られた自信と実績（ノウハウ）があると思いますので、MLAP スタートにより取り入れられた open スタイルを大いに展開して頂き、より多くの方に触れてもらうことで、MLAP（音楽）の魅力に引きつけられた方々が間違いなく増えることと思います。その活動から様々な繋がりが生まれることと思いますので、更なる活動の広がりが生まれ、実施会場が広がっていくことを期待しています。

城南フレンドとしても、例年のクリスマス会で実施頂いている MLAP の魅力を地域の方々へ呼び掛けて活動が広がるように協力させて頂きたいと思います。



♪＜社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会

指定共同生活援助事業早良ひまわりハウス施設長 竹内 巖 委員＞

1 MLAP に対する思い

誰もが生涯学習できるようにという大きな目標に障がい者支援をする者としてやりがいを感じます。

2 MLAP への期待

恒常的につながって行き、当たり前のようにこの活動が定着してほしいです。

♪＜社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会

指定障がい福祉サービスひまわりパーク上牟田施設長 日隈 富貴雄 委員＞

1 MLAP に対する思い・期待

OMLAP と出会って、利用者の笑顔にたくさん出会いました。

参加したいという思い（種）がタンポポンの綿毛のように飛んで行って、たくさんの人の心に MLAP の新しい芽が育って欲しいと思います。

- ・誰もが参加できる場。
- ・いつでも行ける場。
- ・そこに行けば誰かに会える。
- ・楽しい時間を共有し、様々な垣根を超えて交流できる場。

○音楽持つ力の奥深さを感じました。共生社会の推進者・表現者としての MLAP の活動がより充実したものになりま

すよう期待しています。



♪＜DFCA 協会員 福岡ドラムサークルメンバー 前田 かおり 委員＞

1 MLAP に対する思い

色々な背景を持った方が音楽を通して一つになる。

笑顔になる。

その瞬間をみなさんで感じられる場作り。

微力ながらこれからもお手伝いできたら嬉しいです。

(なかなか全てには参加は難しいですが)

2 MLAP への期待

実践からのデータの結果をもとに、どのようなアプローチをするのがよいのか見えてきた課題をみなさんでシェアしながら考えていく機会を持てるといいなあとと思いました。

♪＜音楽療法士 精神保健福祉士 博多音楽療法コミュニティメンバー

近藤 綾子 委員＞

私は日々、患者様やご家族を支援する中で、MLAP の音楽を通じた参加型音楽活動が身近にあればと感じています。」支援を必要とする方々が地域で暮らすことは多くの苦勞が生じます。それは病気の症状や金銭的な問題、家族との関係、仕事等の悩み・・・内容は様々です。気持ちが安らぐ場所がほしいとボソッとと言う方もいらっしゃいます。その場所の1つとなり得るのが MLAP ではないかと思うのです。活動を認知してもらえた1年目。様々な方が協力し取り組めた2年目。さらなる3年目やその後に続いていく事を願っています。



博多音楽療法コミュニティ LINKS 構成員

押本 恵

MLAP に参加して、音楽が作り出す一つの空間のなかで、どんな障害を持つ人でも健常者もセラピストも、みんな同じ楽しみを感じられたことに感動しました。

川嶋茉莉子

MLAP に参加してスタッフの協力の元、参加者の皆さんと有意義な時間を過ごすことができました。そして改めて音楽はバリアフリーだと確信しました。

木道 知佳

古賀 智香

MLAP では、生涯学習における地域との繋がりをより、音楽によって有効にすることができていると感じています。音楽会や、施設での音楽活動を通して、音楽のある環境は勿論、それ以外の場所(生活の中での繋がり)でも、MLAP がきっかけとなり、コミュニティの広がりや、生涯学習に繋がると経験を踏まえて考えます。知的障がいへの社会的な理解や、知的障がいのある方への地域支援、生涯学習の場として音楽を媒介する事により非言語的なコミュニケーションの場でスムーズに生涯学習が実現化できるのではないかと、感じました。だからこそ、協力しています。しかし、プロの目線だからこそ、協力して、MLAP を進められている事も現状ではないかと思います。

近藤 綾子

その場に参加している方々の笑顔を見ていると、MLAP よりが身近な存在となれる事を期待しています。

柴田 佳世子

障害者施設では、地域の方との交流を目的にいろいろな催し物をしたり地域のイベントに参加したりしているが、MLAP のような音楽活動は人と人の距離を縮めるのにとっても良いと感じた。

しかし私たちは本職がありながら、休みの日に MLAP を行っているので行事などが重なる時期は体力的にもきついときがあった。今後 MLAP をする仲間が増え、活動も広がっていくと嬉しい。

中田 哲也

MLAP 参加までは面識がなかった方にも、音楽をメインの媒体としているため受け容れられ易かったように感じる。個々で参加する内容のプログラムは多いが、MLAP では参加者が一体となれるような雰囲気があった。

休日返上で参加する日には、今日はしんどいな、と思うことがあったが、そんな日ですら、参加後には達成感と元気を頂いて帰ることが出来た。

野田 恵美

平日の参加は仕事の関係もあり、なかなか難しかったです。準備の時間も限られましたが、参加した全員(参加者もスタッフも)が笑顔で元気になって帰っていく姿に嬉しく思いました。

藤井 沙由子

松宮 仁美

生涯学習としてバリアフリーの参加型音楽活動をして 20 年以上になります。1 人でだったり、音楽指導者のグループだったりでいろんな場所に行って活動し音楽の力を実感してきました。その中でムラップの場合は、みんなが療法士として知識と精神を持ってあり、どのポジションでもできるし、揃うととても温かな人に寄り添う活動になると感じました。

米倉 裕子

YES! MUSIC! YES! LIFE! YES! MUSIC! YES! MLAP!



2020年2月 発行

編集人 米倉 裕子

発行人 下山 いわ子



福岡市手をつなぐ育成会保護者会

〒810-0062 福岡市中央区荒戸 3-3-39 福岡市市民福祉プラザ4階

TEL 092-713-1480

EMAIL hogsha@fiku.jp